



MasterConsole CAT (MCCAT28/216)

ユーザ ガイド

リリース 2.1

Copyright © 2009 Raritan, Inc.

MCCAT2-0B-v2.1-J

2009 年 3 月

255-20-0005-00

このドキュメントには著作権によって保護されている所有者情報が含まれています。無断で転載することは、禁じられており、このドキュメントのどの部分も Raritan, Inc. (Raritan 社) より事前に書面による承諾を得ることなく複写、複製、他の言語へ翻訳することはできません。

© Copyright 2009 Raritan, Inc., CommandCenter®, Dominion®, Paragon®, Raritan 社のロゴは、Raritan, Inc. の商標または登録商標です。無断で転載することは、禁じられています。Java® は Sun Microsystems, Inc. の登録商標、Internet Explorer® は Microsoft Corporation の登録商標です。また、Netscape® および Netscape Navigator® は Netscape Communication Corporation の登録商標です。その他すべての商標または登録商標は、その所有会社に帰属します。

FCC 情報

この装置は FCC 規則のパート 15 による Class A デジタル装置の制限に準拠することが試験により証明されています。これらの制限は、商業上の設置における有害な干渉を防止するために設けられています。この装置は、無線周波数を生成、利用、放射する可能性があるため、指示に従った設置および使用をしないと、無線通信への干渉を招く恐れがあります。この装置を居住環境で操作すると、干渉を招く場合があります。

VCCI 情報 (日本)

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

事故、自然災害、本来の用途とは異なる使用、不正使用、Raritan 社以外による製品の変更、その他 Raritan 社が関与しない範囲での使用や、通常の運用条件以外での使用による製品の故障については、Raritan 社は一切責任を負いかねます。



電源に関する安全基準

Raritan 社の製品を安全にご利用いただき、重大な故障や破損の危険性を避けるために、以下のことにご注意ください。

- 製品の構成には、2 線式の電源コードは使用しないでください。
- コンピュータやモニタの AC 電源コンセントの極性と接地が正しいことを確認してください。
- コンピュータとモニタの両方とも、アース付きの電源コンセントのみを使用してください。バックアップ用の UPS を使用している場合、コンピュータ、モニタ、その他の装置には電源コンセントから電源を供給しないでください。

ラック マウントに関する安全基準

ラック マウントが必要なラリタン製品を使用する場合、以下のことに注意してください。

- 閉め切ったラック環境では、室温より高くなる場合があります。装置で指定された最高動作温度を超えないようにしてください。仕様を参照してください。
- ラック内に十分な空気の流れがあることを確認してください。
- 装置をラックにマウントする際は、機械的に安定して搭載されるように注意してマウントしてください。
- 回路に過大電流が流れないよう、装置を電源に接続する際は注意してください。
- 特に、電源タップ（直接接続を除く）など電力供給をはじめとするすべての装置を分岐回路に正しく接地してください。

目次

MCCAT ユーザ ガイドの新しい内容

ix

はじめに	1
製品概要.....	1
MCCAT スイッチ.....	2
MCCAT ユーザ ステーション.....	2
MCCAT コンピュータ インターフェイス モジュール (MCIM).....	2
MCUTP ケーブル.....	3
製品写真.....	4
製品の特徴.....	6
MCCAT スイッチ.....	6
MCCAT ユーザ ステーション.....	7
パッケージの内容.....	7
MCCAT スイッチ.....	7
MCCAT ユーザ ステーション (オプション).....	7
構造図.....	7
MCCAT スイッチ.....	8
MCCAT ユーザ ステーション.....	10
クイック スタート	12
MCCAT スイッチのラック マウント.....	12
ケーブル サポート バーの接続 (オプション).....	13
前面マウント.....	14
背面マウント.....	15
基本的なインストール.....	15
前提条件となる項目の準備.....	15
接続の確立.....	16
ユーザ ステーションの接続 (オプション).....	20
ログイン.....	23
コンピュータまたはチャンネルへのアクセス.....	24
[Selection Menu (選択メニュー)] の使用.....	25
チャンネル ボタンの使用.....	26

ログアウト.....	26
OSD インタフェースの概要	28
OSD のレイアウト.....	28
[Lobin (ログイン)] ボックス.....	28
OSD のメニュー.....	29
OSD の起動.....	31
ハイライト色の説明.....	31
チャンネルの色.....	31
アクティブ チャンネルおよび非アクティブ チャンネルとは.....	32
チャンネルの色とステータス.....	33
OSD 操作キー.....	33
高度な操作	36
チャンネルのソート基準の切り替え.....	37
チャンネルの循環.....	38
SCAN ボタンの使用.....	39
F6 ファンクション キーの使用.....	39
アクティブ チャンネルのみへのアクセス.....	40
SKIP ボタンの使用.....	41
F7 ファンクション キーの使用.....	41
コンピュータの共有.....	42
[Help (ヘルプ)] メニューの起動.....	43
Sun サーバのサポート.....	44
特殊な Sun キーのエミュレート.....	44
チャンネル ステータスの更新.....	46
システム設定	47
チャンネル名の割り当てと変更.....	48
スキャン レートの変更.....	49
MCCAT スイッチの名前変更.....	50
パスワードの変更.....	51
ホット キーの変更.....	52
操作モードの変更.....	53
グリーン モードのセットアップ.....	54
ログオフ タイムアウト機能のセットアップ.....	55
[Login (ログイン)] ボックスの消去.....	56
ユーザ アカウントの管理.....	57
ユーザ アカウントの名前変更.....	57
ユーザ アカウントの追加.....	58
ユーザ アカウントの削除.....	59

目次

チャンネル ID の表示機能のセットアップ	59
ID の表示機能のセットアップ	60
ID 表示位置の調整	61
OSD メニューの位置の調整	61
システム設定のリセット	62

2 段カスケード システム 63

概要	63
2 段カスケード システムの設定	64
手順 (A):MCCAT スイッチを 2 段目のデバイスとして設定する	64
手順 (B):2 段目の MCCAT スイッチをベース スイッチに接続する	65
手順 (C):入出力デバイスをベース スイッチに接続する	66
手順 (D): OSD で 2 段目のデバイスの種類を指定する	68
手順 (E): コンピュータを MCCAT システムに接続する	69
2 段目のチャンネルのセットアップ	69
2 段目のチャンネルへのアクセス	70
2 段カスケード システムの制限	71

ベース スイッチの OSD に戻る.....	71
キーボード レイアウト設定 (Sun USB MCUTP ケーブルの場合)	72
キーボード レイアウト設定の変更.....	72
キーボード レイアウトのコード.....	74
ユーザ ステーションのダイレクト モード	76
ファームウェアのアップグレード	78
手順 (A):最新のファームウェアとアップグレード ユーティリティをダウンロードする.....	78
手順 (B): アップグレード ユーティリティを実行するコンピュータに目的のデバイスを接続する.....	79
手順 (C):アップグレード ユーティリティを起動する.....	81
仕様	85
サイズ.....	85
電源.....	85
動作環境.....	85
サポートされる解像度.....	86
ケーブルの長さ制限	87
ユーザおよび MCCAT スイッチの最大距離.....	87
ユーザおよびコンピュータの最大距離.....	87
ユーザ ステーションのダイレクト モードの最大距離.....	88
他のラリタン製品との互換性	89
互換性のある KVM スイッチ.....	89
1 ユーザ用 MCCAT スイッチ.....	89
TMCAT17 スイッチ.....	92
互換性のある CIM.....	92
シリアル CIM を使用したシリアル デバイスの接続.....	94
P2-EUST ユーザ ステーション.....	96
サポートされるケーブルの最大長.....	97

目次

デフォルトの設定	99
トラブルシューティング	100
索引	103

MCCAT ユーザ ガイドの新しい内容

以下に示すセクションは、装置またはユーザ マニュアルの拡張や変更に基づいて内容が変更されたセクション、または MCCAT ユーザ ガイドに情報が追加されたセクションです。

- **MCUTP ケーブル** 『p. 3』
- **製品写真** 『p. 4』
- **MCCAT スイッチ** 『p. 6』
- **前提条件となる項目の準備** 『p. 15』
- **接続の確立** 『p. 16』
- **Sun サーバのサポート** 『p. 44』
- **アクティブ チャンネルおよび非アクティブ チャンネルとは** 『p. 32』
 - **アクティブ チャンネル** 『p. 32』
 - **非アクティブ チャンネル** 『p. 32』
- **2 段カスケード システムの制限** 『p. 71』
- **キーボード レイアウト設定 (Sun USB MCUTP ケーブルの場合)** 『p. 72』
 - **キーボード レイアウト設定の変更** 『p. 72』
 - **キーボード レイアウトのコード** 『p. 74』
- **ユーザ ステーションのダイレクト モード** 『p. 76』
- **ケーブルの長さ制限** 『p. 87』
 - **ユーザおよび MCCAT スイッチ間の最大距離** 『p. 87の"ユーザおよび MCCAT スイッチの最大距離"参照 』
 - **ユーザおよびコンピュータ間の最大距離** 『p. 87の"ユーザおよびコンピュータの最大距離"参照 』
 - **ユーザ ステーションのダイレクト モードの最大距離** 『p. 88』
- **互換性のある KVM スイッチ** 『p. 89』
 - **1 ユーザ用 MCCAT スイッチ** 『p. 89』
 - **TMCAT17 スイッチ** 『p. 92』

今回のバージョンの MCCAT に加えられた変更の詳しい説明は、リリース ノートを参照してください。

ラリタンの 2 ユーザ用 MasterConsole CAT KVM スイッチ (MCCAT28 または MCCAT216、MasterConsole CAT (MCCAT) ユーザ ステーション) をお買い上げいただきありがとうございます。このユーザ ガイドでは、これらのデバイスを使用して複数のコンピュータまたはサーバにアクセスしたり、それらのコンピュータを制御したりする方法について説明します。

この章の内容

製品概要.....	1
製品写真.....	4
製品の特徴.....	6
パッケージの内容.....	7
構造図.....	7

製品概要

MCCAT スイッチは、1 組のキーボード、マウス、およびモニタのセットから複数のコンピュータを制御可能にする KVM (キーボード/ビデオ/マウス) スイッチです。キーボード、マウス、モニタ、およびすべてのコンピュータを MCCAT スイッチに接続することにより、MCCAT スイッチに接続されているコンピュータを切り替えることができます。MCCAT スイッチを 2 段式の MCCAT システムにカスケード式に接続すると、アクセス可能なコンピュータの数は最大 256 台まで拡張できます。

MCCAT スイッチは標準の Cat5 (Category 5) UTP (Unshielded Twisted-Pair) ケーブルを使用してコンピュータに接続します。操作の方法としては、前面パネルにボタンが備えられ、接続されているコンピュータにすばやく簡単にアクセスできます。また、使いやすい OSD (On-Screen Display) インタフェースも備え、システム設定を簡単に行うことができます。

1 つの MCCAT システムを設定するには、以下のコンポーネントが必要です。

- MCCAT スイッチ
- MCCAT ユーザ ステーション (オプション)
- MCCAT コンピュータ インタフェース モジュール (MCIM) または MCUTP ケーブル

MCCAT スイッチ

MCCAT スイッチは、コンピュータの接続ポートおよび 1 組のキーボード、マウス、モニタのセットを備えています。MCCAT スイッチのタイプには、1 ユーザ タイプと 2 ユーザ タイプの 2 種類があります。1 ユーザ タイプと 2 ユーザ タイプの違いは、2 ユーザ タイプでは USB キーボードおよびマウスに接続するための USB ポートと、MCCAT ユーザ ステーションに接続するための RJ-45 ポートを別に備えている点です。

- 1 ユーザ タイプ

"1 ユーザ用" MCCAT スイッチおよび接続されているコンピュータに一度にアクセスできるのは 1 人のユーザのみです。

2 つのモデル MCCAT18 と MCCAT116 があります。

- 2 ユーザ タイプ

"2 ユーザ用" MCCAT スイッチおよび接続されているコンピュータには、一度に 2 人のユーザがアクセスできます。

2 つのモデル MCCAT28 と MCCAT216 があります。

注：このユーザ ガイドでは 2 ユーザ用タイプについて説明します。"1 ユーザ用" MCCAT スイッチの詳細については、付属の『クイック セットアップ ガイド』を参照するか、ラリタンの Web サイトの [マニュアル/セットアップガイド] [『http://www.raritan.com/support/firmware-and-documentation/参照』](http://www.raritan.com/support/firmware-and-documentation/) ページから『MCCAT18/116 ユーザ ガイド』をダウンロードしてください。

MCCAT ユーザ ステーション

MCCAT ユーザ ステーションは、キーボード、マウス、モニタのセットを互換性のある KVM スイッチに接続します。標準の Cat5 UTP ケーブルでユーザ ステーションを MCCAT スイッチに接続します。

1 モデルのみ : MCCAT-UST

MCCAT コンピュータ インターフェイス モジュール (MCIM)

MCIM は、接続されているコンピュータと MCCAT スイッチの間でキーボード、マウス、ビデオの信号を送信します。1 台のコンピュータに必要な MCIM は 1 本のみです。MCIM のタイプには次の 2 種類があります。

- USB タイプ

MCIM-USB には HD15 VGA コネクタと USB コネクタが付属します。

- PS/2 タイプ

MCIM-PS2 には HD15 VGA コネクタ、PS/2 キーボード コネクタ、および PS/2 マウス コネクタが付属します。

MCUTP ケーブル

1 本の MCUTP ケーブルはコンピュータ インタフェース モジュール (CIM) と Cat5 UTP ケーブルの組み合わせであるため、MCIM の代わりに使用することができます。

MCUTP ケーブルは Windows 98 オペレーティング システムとの互換性がありません。Windows 98 が稼働しているコンピュータでは MCIM を使用してください。

MCUTP ケーブル のタイプには次の 3 種類があります。

- USB タイプ

このタイプには、HD15 VGA コネクタ、USB コネクタ、および RJ-45 コネクタが付属します。

モデル	ケーブルの長さ
MCUTP06-USB	0.6 メータ (2 フィート)
MCUTP20-USB	2 メータ (6.5 フィート)
MCUTP40-USB	4 メータ (13 フィート)
MCUTP60-USB	6 メータ (20 フィート)

- PS/2 タイプ

PS/2 タイプには HD15 VGA コネクタ、PS/2 キーボード コネクタ、PS/2 マウス コネクタ、および RJ-45 コネクタが付属します。

モデル	ケーブルの長さ
MCUTP06-PS2	0.6 メータ (2 フィート)
MCUTP20-PS2	2 メータ (6.5 フィート)
MCUTP40-PS2	4 メータ (13 フィート)
MCUTP60-PS2	6 メータ (20 フィート)

- Sun USB タイプ

Sun USB タイプには、HD15 VGA コネクタ、Sun USB コネクタ、および RJ-45 コネクタが付属します。

モデル	ケーブルの長さ
MCUTP06-SUSB	0.6 メータ (2 フィート)
MCUTP20-SUSB	2 メータ (6.5 フィート)
MCUTP40-SUSB	4 メータ (13 フィート)
MCUTP60-SUSB	6 メータ (20 フィート)

製品写真

MCCAT28 (前面と背面)



MCCAT216 (前面と背面)



MCCAT-UST (前面と背面)



MCUTP20-PS2 ケーブル



MCUTP20-USB または MCUTP20-SUSB ケーブル



製品の特徴

MCCAT スイッチ

- 1 人のユーザが 1 台のユニットで複数のコンピュータを制御できます。ただし、制御可能なコンピュータの台数は、購入したモデルによって異なります。
 - **MCCAT28** は最大 8 台のコンピュータを制御可能
 - **MCCAT216** は最大 16 台のコンピュータを制御可能
- MCCAT スイッチをカスケードしている場合、最大 256 台のコンピュータをサポート
- 2 ユーザ用の操作をサポート
- PC 共有モードをサポート
- MS-DOS、Windows 2000/2003/NT/XP/Vista、Macintosh OS9/OSX、Linux (Red Hat, Novell Suse)、SCO Unix、Sun Solaris などのマルチプラットフォームをサポート
- IBM、Dell、HP、および Sun サーバをサポート
- 最大 1600x1200 のビデオ解像度に対応
- コンピュータから離れた場所にユーザを配置可能
 - 1600x1200 のビデオ解像度では 100 フィート (30.48 メータ)
 - 1280x1024 以下のビデオ解像度では 150 フィート (45.72 メータ)
- 標準の Cat5 UTP ケーブル経由のコンピュータとの接続
- OSD インタフェースによる簡単なシステム制御と管理機能
- 「キープアライブ」テクノロジーにより、コンピュータを中断することなくコンポーネントの取り付け、取り外し、および交換が可能
- **スキャン**機能により、システムがすべてのチャンネルを自動的に巡回し、チャンネルステータスを更新するように指定可能
- **スキップ**機能により、システムがアクティブでないチャンネルを迂回するように指定可能

注：“アクティブ”チャンネルとは、電源がオンの MCIM または MCUTP ケーブルとの接続を MCCAT スイッチが検知したチャンネルポートです。“非アクティブ”チャンネルはその逆です。詳細については、「**アクティブチャンネルおよび非アクティブチャンネル**とは『p. 32』」を参照してください。

- **ログイン** メカニズムは、MCCAT スイッチや接続されたコンピュータに、許可されていない人がアクセスできないようにします。
- 標準の RS-232 シリアル ケーブル経由の簡単なファームウェアのアップグレード
- 前面パネルのチャンネル ボタンを使用して、コンピュータへのすばやいアクセスが可能
- 標準の USB または PS/2 キーボードおよびマウスのサポート

MCCAT ユーザ ステーション

- 標準 Cat5 UTP ケーブル経由での互換性のある KVM スイッチとの接続
- 標準の USB または PS/2 キーボードおよびマウスのサポート
- 標準の RS-232 シリアル ケーブル経由の簡単なファームウェアのアップグレード

パッケージの内容

ご購入いただいたパッケージによっては、MCCAT ユーザ ステーションが含まれていない場合があります。MCCAT28-UST または MCCAT216-UST をお求めいただいた場合は、パッケージにユーザ ステーションが含まれます。

MCCAT スイッチ

- MCCAT スイッチ x 1
- 電源コード x 1
- ラックマウント キット x 1 (ブラケットとネジが付属)
- クイック セットアップ ガイド x 1
- 保証書 x 1

MCCAT ユーザ ステーション (オプション)

- MCCAT ユーザ ステーション x 1
- 電源アダプタ x 1
- クイック セットアップ ガイド x 1
- 保証書 x 1

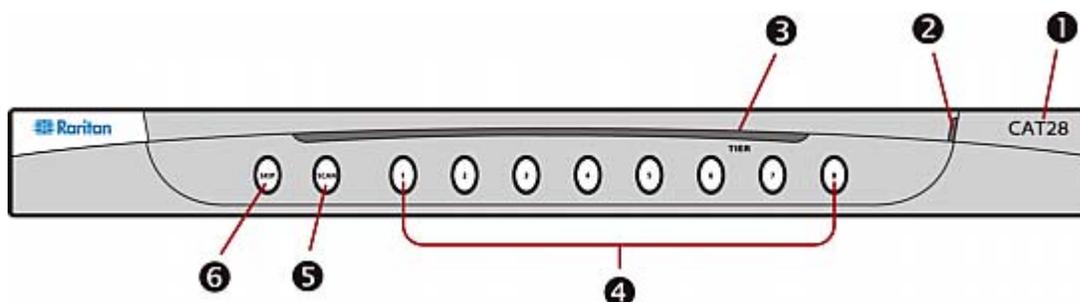
構造図

このセクションでは、MCCAT スイッチおよびユーザ ステーションの前面または背面のコンポーネントについての概要を説明します。

MCCAT スイッチ

前面

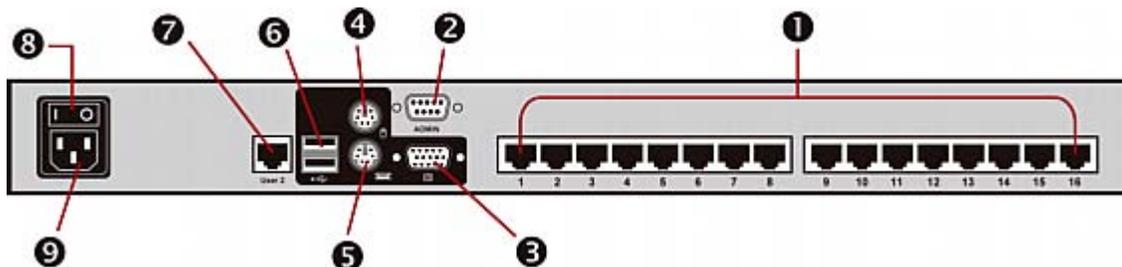
前面パネルのプッシュ ボタンは、MCCAT スイッチに直接接続されたキーボード、マウス、およびモニタを操作するユーザのみ使用できます。MCCAT ユーザ ステーションに接続されたキーボードおよびマウスを操作する際は、前面パネルを使用しないでください。



①	モデル名	<ul style="list-style-type: none"> • CAT28 : デバイスは MCCAT28 です。 • CAT216 : デバイスは MCCAT216 です。
②	電源 LED	<p>デバイスの電源がオンかどうかを示します。</p> <p>LED が点灯している場合は、デバイスの電源がオンであることを示します。オフの場合、電源が供給されていないか、デバイスの電源がオフです。</p>
③	TIER LED	<p>デバイスの段のステータスを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • オフ :MCCAT スイッチは 1 段目のデバイス、つまり、ベース スイッチとして設定されています。これは工場出荷時のデフォルト値です。 • 緑 :MCCAT スイッチは 2 段目のデバイスとして設定されています。操作手順については、「手順 (A):MCCAT スイッチを 2 段目のデバイスとして設定する『p. 64の"手順 (A):MCCAT スイッチを 2 段目のデバイスとして設定する"参照』」を参照してください。
④	チャンネル ボタン	対応するチャンネル ポートに接続されているコンピュータにすぐにアクセスできま

		<p>す。また、各チャンネル ボタンでは LED の色によってチャンネル ステータスを確認できます (以下に説明)。</p> <ul style="list-style-type: none"> • オフ : チャンネルは非アクティブです。「非アクティブ チャンネル 『p. 32』」を参照してください。 • オレンジ : チャンネルはアクティブです。「アクティブ チャンネル 『p. 32』」を参照してください。 • 緑 : ユーザがアクティブまたは非アクティブのチャンネルにアクセスしています。 <p>ヒント : チャンネル LED がチャンネルのステータスを正しく示さない場合は、チャンネル ステータスを更新します。「チャンネル ステータスの更新 『p. 46』」を参照してください。</p>	5 SCAN ボタン
6	SKIP ボタン	<p>スキップ機能のオンとオフを切り替えます。</p> <p>スキップ機能がオンの場合は、ボタンの LED が点灯し、非アクティブ チャンネルをスキップしてアクティブ チャンネルのみにアクセスします。「アクティブ チャンネル および非アクティブ チャンネルとは 『p. 32』」を参照してください。</p>	

背面



1	チャンネル ポート	コンピュータを接続します。購入されたモデルによって、デバイスには 8 ~ 16 個のチャンネル ポートが備わっています。
2	管理ポート	ファームウェアをアップグレードする場合にコンピュータを接続します。
3	VGA ポート	VGA モニタを接続します。
4	マウス用 PS/2 ポート	PS/2 マウスを接続します。
5	キーボード用 PS/2 ポート	PS/2 キーボードを接続します。
6	USB K/M ポート	USB キーボードとマウスを接続します。
7	ユーザ 2 ポート	オプションの MCCAT ユーザ ステーションを接続します。
8	電源スイッチ	電源のオンとオフを切り替えます。
9	電源ソケット	電源コードを接続します。

警告： PS/2 キーボードと USB キーボード、または PS/2 マウスと USB マウスをそれぞれ同時に接続しないでください。同時に接続した場合、正しく動作するのは USB キーボードとマウスのみです。

MCCAT ユーザ ステーション

1 台の MCCAT ユーザ ステーションで、キーボード、マウス、およびモニタのセットを以下の任意のデバイスに接続できます。

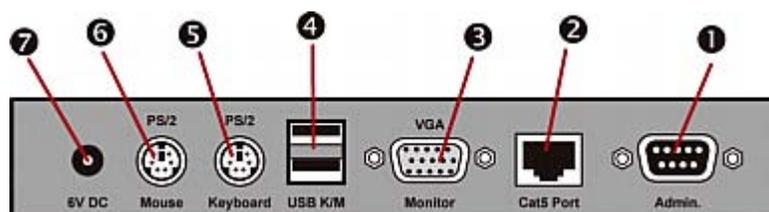
- MCCAT28、MCCAT216、TMCAT1728、TMCAT17216 など、互換性のある KVM スイッチ。
- コンピュータ。詳細については、「**ユーザ ステーションのダイレクト モード**」[p. 76]を参照してください。

前面



①	電源 LED	<p>デバイスの電源がオンかどうかを示します。</p> <p>LED が点灯している場合は、デバイスの電源がオンであることを示します。オフの場合、デバイスに電力が供給されていません。</p>
---	--------	---

背面



①	管理ポート	ファームウェアをアップグレードする場合にコンピュータを接続します。
②	Cat5 ポート	互換性のある KVM スイッチまたはコンピュータを接続します。
③	VGA ポート	VGA モニタを接続します。
④	USB K/M ポート	USB キーボードとマウスを接続します。

⑤	キーボード用 PS/2 ポート	PS/2 キーボードを接続します。
⑥	マウス用 PS/2 ポート	PS/2 マウスを接続します。
⑦	電源インレット	電源アダプタを接続します。

警告 : PS/2 キーボードと USB キーボード、または PS/2 マウスと USB マウスをそれぞれ同時に接続しないでください。同時に接続した場合、正しく動作するのは USB キーボードとマウスのみです。

2

クイック スタート

この章では、MCCAT 基本システムをセットアップするためのインストール手順と、接続されているコンピュータにアクセスするための基本手順を説明します。高度な OSD 操作、またはハードウェアの設置方法については、「**高度な操作**」『p. 36』、「**システム設定**」『p. 47』および、「**2 段カスケード システム**」『p. 63』を参照してください。

この章の内容

MCCAT スイッチのラック マウント.....	12
基本的なインストール.....	15
ユーザ ステーションの接続 (オプション).....	20
ログイン.....	23
コンピュータまたはチャンネルへのアクセス.....	24
ログアウト.....	26

MCCAT スイッチのラック マウント

MCCAT スイッチは標準 19 インチの製品ラックの 1 U (1.75 インチ、4.4 cm) の縦位置スペースにマウントできます。ラックに MCCAT スイッチをマウントするには、装置に付属しているブラケットとネジ (P2-HUBPAC のブラケット用部品) を使用します。ラックの前面または背面のいずれにも、MCCAT スイッチをマウントできます。

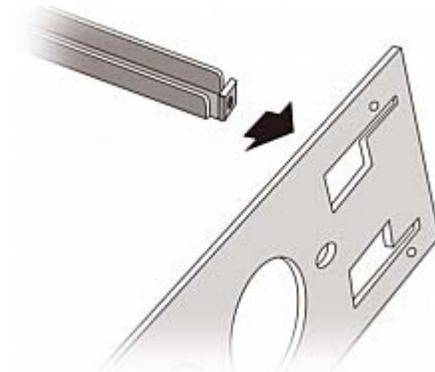
ケーブル サポート バーの接続 (オプション)

ケーブルの重量に不安がある場合は、2 つのラック マウント ブラケット間にケーブル サポート バーを設置し、MCCAT スイッチの背面に接続されたケーブルの重量を支えることができます。MCCAT スイッチのマウント方法に応じて、ケーブル サポート バーを設置する位置は次のように異なります。

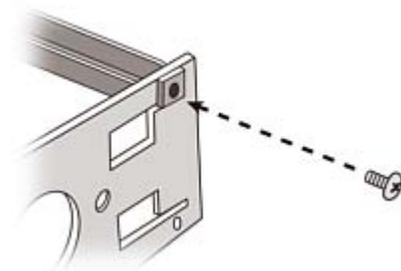
- MCCAT スイッチの前面パネルをラックの前面に向ける場合は、ラック マウント ブラケットの側面部から遠い L 型の穴に、ケーブル サポート バーを固定します。
- MCCAT スイッチの前面パネルをラックの背面に向ける場合は、ラック マウント ブラケットの側面部に近い L 型の穴に、ケーブル サポート バーを固定します。

▶ ケーブル サポート バーを設置するには、以下の手順に従います。

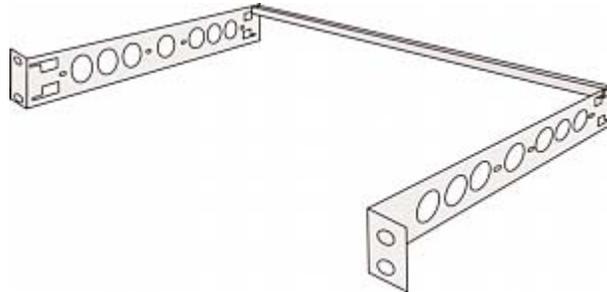
1. L 型の穴の上部に面した、または L 型の穴の下部にあるくぼんだスロットを使って、ケーブル サポート バーの一端を、ラック マウント ブラケットの L 型の穴に押し込みます。



2. ケーブル サポート バーを上限に動かし、くぼんだスロットが上部の L 型の穴の上辺、または下部の L 型の穴の下辺にはまるようにします。
3. L 型の穴の端までバーをスライドさせ、バーの穴と L 型の穴の上下にあるネジ穴が合うようにします。
4. 付属の押さえネジでケーブル サポート バーをしっかりと固定します。



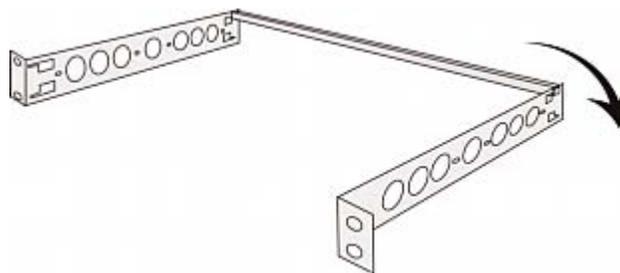
- 手順 1 ~ 4 を繰り返し、ケーブル サポート バーのもう一方の端を他のラックマウント ブラケットに固定します。



ケーブル サポート バーを固定した後、ブラケットの部品を MCCAT スイッチに設置して、ラックにデバイスをマウントすることができます。「**前面マウント**」[p. 14]または「**背面マウント**」[p. 15]を参照してください。

▶ **ブラケットの部品を MCCAT スイッチに設置する前に**

ケーブル サポート バーを L 型の上部の穴に設置する場合は、ブラケットの部品を上下逆にします。

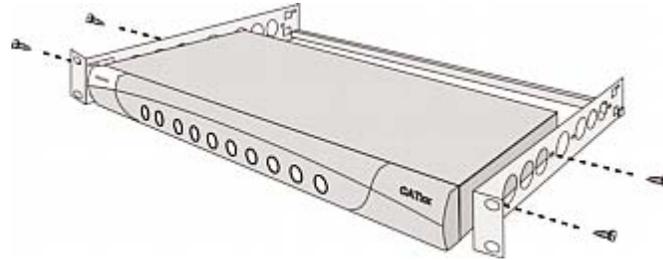


前面マウント

▶ **ラックの前方にある前面パネルに MCCAT スイッチをマウントするには、以下の手順に従います。**

- MCCAT スイッチの前面パネルとブラケットの側面を自分の方に向けます。
- MCCAT スイッチの片側にある 2 つのネジ穴と、ブラケットの側面に近い楕円形の 2 つの穴が合うように調整します。
- 付属のネジ 2 個を使って、MCCAT スイッチにブラケットをしっかりと固定します。
- 1 ~ 3 の手順を繰り返し、MCCAT スイッチの反対側に他のブラケットもしっかりと固定します。

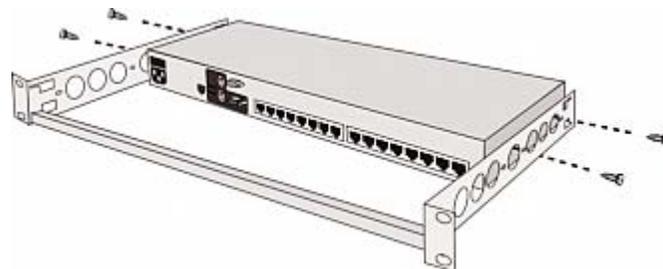
5. ラックにすべての部品をマウントし、ラック用のネジ、ボルト、ケージ ナットなどを使って、ラック前面のレールにブラケットの側面をしっかりと固定します。



背面マウント

- ▶ ラックの背面にある前面パネルに MCCAT スイッチをマウントするには、以下の手順に従います。

1. MCCAT スイッチの背面パネルとブラケットの側面を自分の方に向けます。
2. MCCAT スイッチの片側にある 2 つのネジ穴と、ブラケットの側面から遠い楕円形の 2 つの穴が合うように調整します。
3. 付属のネジ 2 個を使って、MCCAT スイッチにブラケットをしっかりと固定します。
4. 1 ~ 3 の手順を繰り返し、MCCAT スイッチの反対側に他のブラケットもしっかりと固定します。
5. ラックにすべての部品をマウントし、ラック用のネジ、ボルト、ケージ ナットなどを使って、ラック前面のレールにブラケットの側面をしっかりと固定します。



基本的なインストール

前提条件となる項目の準備

接続する前に、次のコンポーネントまたはデバイスを用意しておきます。

- MCIM または MCUTP ケーブル (各コンピュータに 1 本)
 - MCIM を使用する場合は Cat5 UTP ケーブルが必要です。

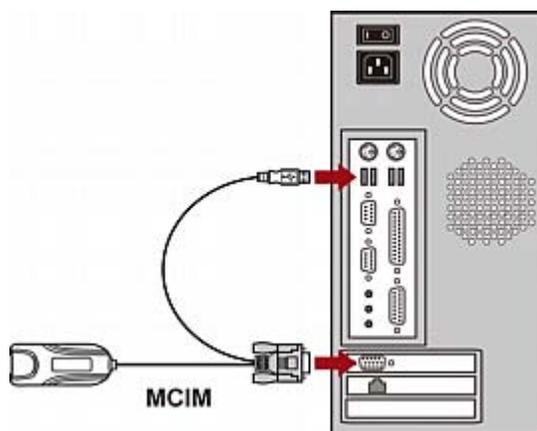
MCUTP ケーブルは Windows 98 オペレーティング システムとの互換性がありません。Windows 98 が稼働しているコンピュータでは MCIM を使用してください。

- 標準の PS/2 または USB キーボード (少なくとも 1 つ)
- 標準の PS/2 または USB マウス (少なくとも 1 つ)
- HD15 VGA コネクタ付属の標準モニタ (少なくとも 1 台)

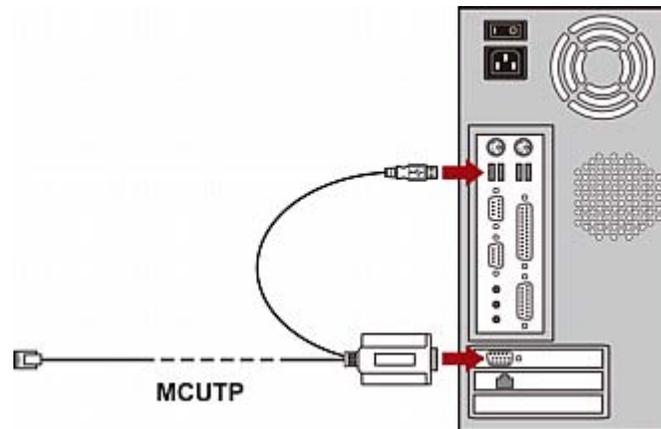
注：コンピュータが Sun サーバの場合、MCIM の代わりに Sun USB MCUTP ケーブルまたは DCIM-USB G2 を準備する必要があります。

接続の確立

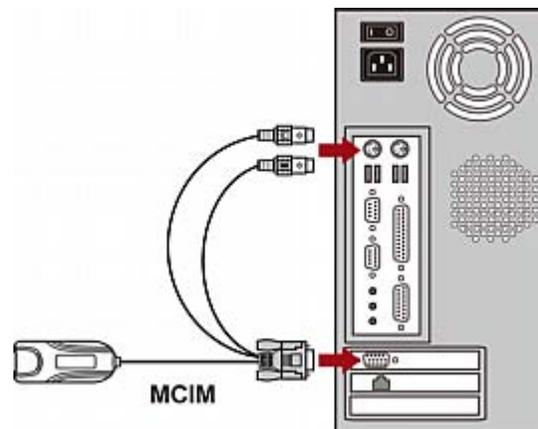
1. MCCAT スイッチおよびコンピュータなど、すべてのデバイスの電源をオフにします。
2. MCIM または MCUTP ケーブルをコンピュータに接続します。
 - MCIM-USB または USB MCUTP ケーブルを使用する場合：
 - a. MCIM または MCUTP の USB コネクタを、コンピュータで使用可能な USB ポートのいずれかに接続します。
 - b. MCIM または MCUTP のビデオ コネクタを、コンピュータの VGA ポートに接続します。



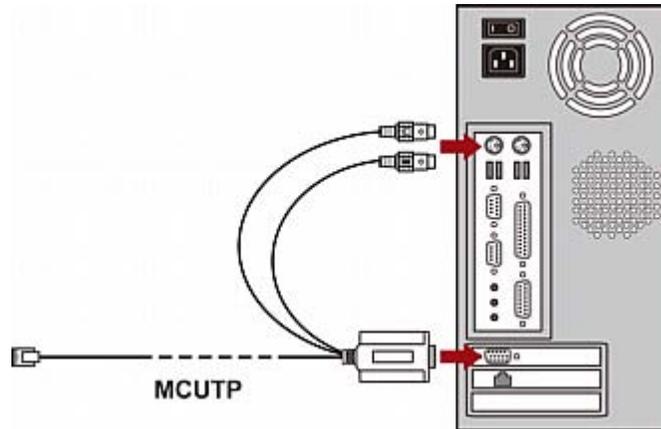
- または -



- MCIM-PS2 または PS/2 MCUTP ケーブルを使用する場合 :
 - a. MCIM または MCUTP の PS/2 マウス コネクタを、コンピュータの PS/2 マウス ポートに接続します。
 - b. MCIM または MCUTP の PS/2 キーボード コネクタを、コンピュータの PS/2 キーボード ポートに接続します。
 - c. MCIM または MCUTP のビデオ コネクタを、コンピュータの VGA ポートに接続します。



- または -

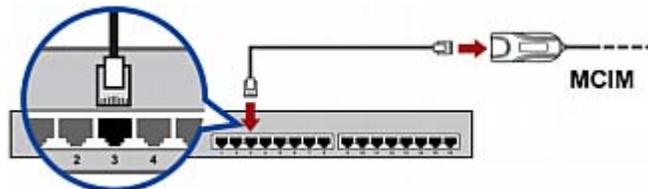


- Sun USB MCUTP ケーブルを使用する場合：
 - a. MCUTP の Sun USB コネクタを Sun サーバの使用可能な USB ポートのいずれかに接続します。
 - b. MCUTP のビデオ コネクタを Sun サーバの VGA ポートに接続します。

注：詳細については、ユーザ ガイドの「Sun サーバのサポート」『p. 44』を参照してください。

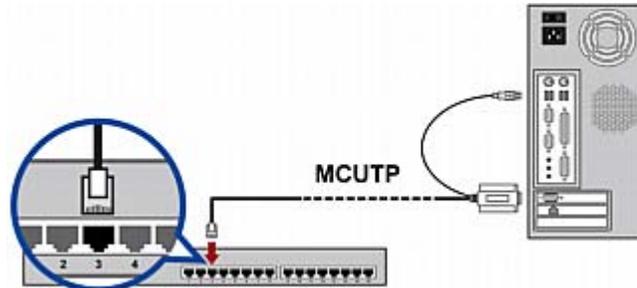
3. コンピュータを MCCAT スイッチに接続します。

- MCIM を使用する場合：
 - a. Cat5 UTP ケーブルの一端をコンピュータに接続されている MCIM の RJ-45 ポートに接続します。
 - b. Cat5 UTP のもう一方の端を MCCAT スイッチのチャンネル ポート的一端に接続します。

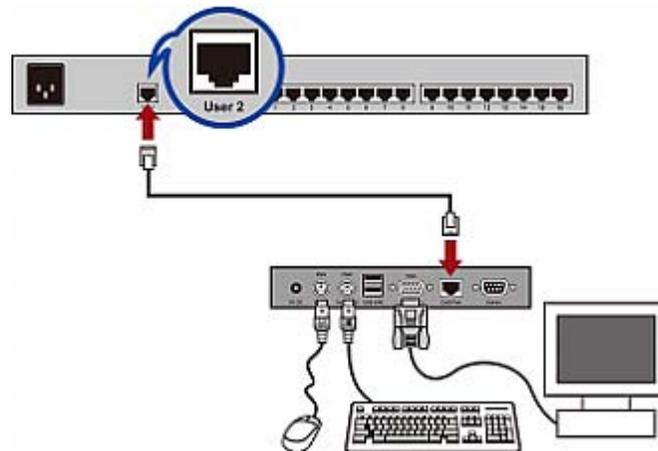


- MCUTP ケーブルを使用する場合：

- MCUTP ケーブルの RJ-45 コネクタを MCCAT スwitchのチャンネルポートのいずれかに接続します。



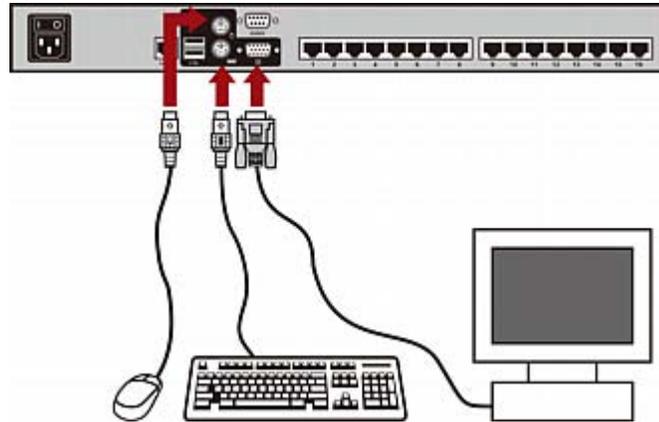
4. 複数のコンピュータを接続する場合は、手順 2 ~ 3 を繰り返します。
5. (オプション) 標準の Cat5 UTP ケーブル経由で MCCAT ユーザ ステーションを MCCAT スwitchの **User 2** ポートに接続します。詳細については、ユーザ ステーションに付属の『クイック セットアップ ガイド』または、『ユーザ ガイド』の「**ユーザ ステーションの接続 (オプション)**」『p. 20』を参照してください。



ヒント : MCCAT スwitchは Paragon II の拡張ユーザ ステーション、**P2-EUST** 『p. 96の"P2-EUST ユーザ ステーション"参照』と互換性があります。P2-EUST デバイスをお持ちの場合は、MCCAT ユーザ ステーションの代わりに P2-EUST を MCCAT スwitchに接続できます。

6. キーボード、マウス、およびモニタを MCCAT スwitchに接続します。
 - a. マウスのコネクタを、MCCAT スwitchの PS/2 または USB ポートに接続します。
 - b. キーボードのコネクタを、MCCAT スwitchの PS/2 または USB ポートに接続します。

- c. モニタの VGA コネクタを MCCAT スイッチの VGA ポートに接続します。



警告： 警告： PS/2 キーボードと USB キーボード、または PS/2 マウスと USB マウスをそれぞれ同時に接続しないでください。同時に接続した場合、正しく動作するのは USB キーボードとマウスのみです。

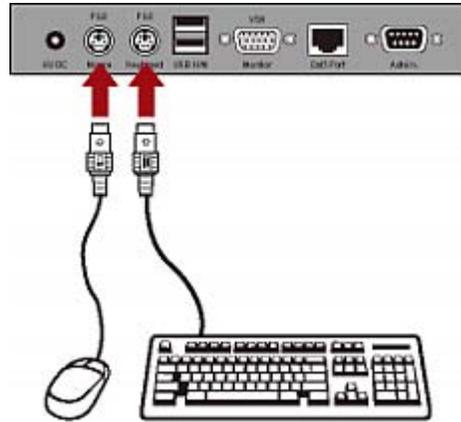
7. MCCAT システムのすべてのデバイスに適切な電源コードを接続してください。
8. 接続しているコンピュータとモニタの電源をオンにします。
9. MCCAT スイッチの電源をオンにします。

ユーザ ステーションの接続 (オプション)

MCCAT ユーザ ステーションを "2 ユーザ用" MCCAT スイッチや TMCAT 17 シリーズなどの互換性のある KVM スイッチに接続して、KVM スイッチおよびコンピュータにアクセスできるユーザ数を増やすことができます。

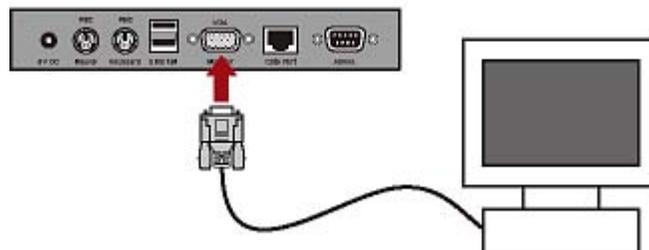
1. PS/2 または USB のキーボードとマウスをユーザ ステーションに接続します。
 - a. マウスのコネクタを、ユーザ ステーションの PS/2 または USB ポートに接続します。

- b. キーボードのコネクタを、ユーザ ステーションの PS/2 または USB ポートに接続します。



警告： PS/2 キーボードと USB キーボード、または PS/2 マウスと USB マウスをそれぞれ同時に接続しないでください。同時に接続した場合、正しく動作するのは USB キーボードとマウスのみです。

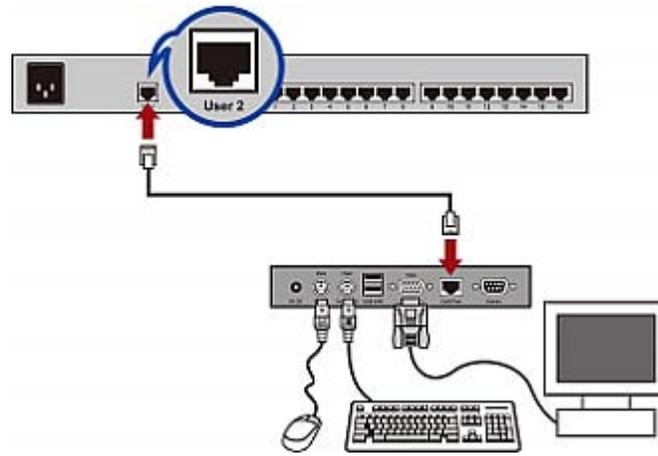
2. ユーザ ステーションに VGA モニタを接続します。



3. 標準の Cat5 UTP ケーブルでユーザ ステーションを KVM スイッチに接続します。

- a. Cat5 ケーブルの端をユーザステーションの **Cat5 Port** に接続します。

- b. ケーブルのもう一方の端を KVM スイッチの **User 2** ポートに接続します。



4. ユーザ ステーションに電源アダプタを接続します。
- 電源アダプタの端をユーザ ステーションの電源インレットに接続します。
 - 電源アダプタのもう一方の端を電源コンセントに接続します。
5. 接続しているモニタの電源をオンにします。

設置が完了し、すべてのデバイスの電源をオンにすると、ユーザ ステーションに接続されているキーボード、マウス、およびモニタを使用して、KVM スイッチに接続されているコンピュータにアクセスすることができます。

ヒント : MCCAT スイッチは Paragon II の拡張ユーザ ステーション、**P2-EUST** 『p. 96の"P2-EUST ユーザ ステーション"参照』と互換性があります。
P2-EUST デバイスをお持ちの場合は、MCCAT ユーザ ステーションの代わりに P2-EUST を MCCAT スイッチに接続できます。

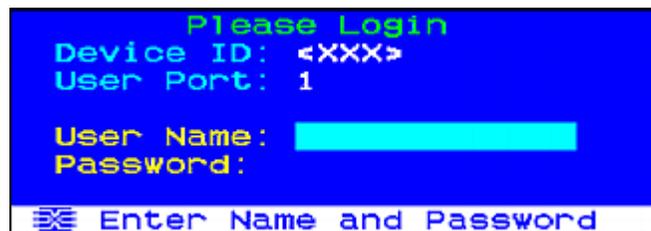
ログイン

ログイン メカニズムにより、許可されていないユーザによるシステムへのアクセスや設定の変更を回避できます。任意のコンピュータにアクセスするには、いずれのユーザ アカウントでもログインできます。[Administration (管理)] メニューのシステム設定を行うには、管理者アカウントでログインする必要があります。

注：図の <XXX> はモデル名を表し、ご購入された製品に応じて変わります。

▶ MCCAT システムにログインするには、以下の手順に従います。

1. MCCAT システムの電源をオンにすると、画面に [Login (ログイン)] ボックスが表示されます。



2. ユーザ名とパスワードを入力します。たとえば、管理者の場合、ユーザ名は「admin」、でデフォルト パスワードは「raritan」です。
 - a. [User Name (ユーザ名)] フィールドに「admin」と入力し、Enter を押します。
 - b. [Password (パスワード)] フィールドに「raritan」と入力し、Enter を押します。パスワードは、大文字と小文字が区別されます。



3. ログインが成功したことを示す [Selection Menu (選択メニュー)] が表示されます。

Selection Menu				Page 1 / 2
<XXX>	No	Ch. ID	Name	Scn
1	01			05
2	02			05
3	03			05
4	04			05
5	05			05
6	06			05
7	07			05
8	08			05



 Page FKey Ent Esc
 ScrLock | Scan | Skip NCS

重要 :MCCAT システムを安全にご使用いただくために、デフォルト パスワードの変更を強く推奨します。詳細については、『ユーザ ガイド』の「パスワードの変更 『p. 51』」を参照してください。

コンピュータまたはチャンネルへのアクセス

ログイン後には、表示する任意のチャンネルを選択し、チャンネルに接続しているコンピュータを制御できます。使用するキーボード、マウス、モニタの設定に応じて、チャンネルの選択には 1 ~ 2 種類の方法があります。キーボード、マウス、およびモニタをこれ以降 "入出力デバイス" と呼びます。

- MCCAT スイッチに直接接続されている入出力デバイス进行操作する場合は、以下のいずれかの方法を使用できます。
 - On-Screen Display (OSD) の [Selection Menu (選択メニュー)] または
 - 前面パネルのチャンネル ボタン

システムにログイン後、初めてチャンネルにアクセスするには、[Selection Menu (選択メニュー)] を使用する必要があります。

注 : 2 段カスケード システムでは、"2 段目" の MCCAT スイッチの前面パネルのすべてのボタンが無効になり、2 段目のデバイスで使用できるのは OSD のみです。

- MCCAT ユーザ ステーションに接続されている入出力デバイス进行操作する場合は、以下の方法を使用できます。
 - OSD の [Selection Menu (選択メニュー)]

[Selection Menu (選択メニュー)] の使用

ログイン後、最初に表示される OSD メニューは [Selection Menu (選択メニュー)] ですが、チャンネル名を割り当てない限りデフォルトではチャンネル名は表示されません。

Selection Menu				
<XXX>	Page			1 / 2
No	Ch. ID	Name	Page	Scn
1	01			05
2	02			05
3	03			05
4	04			05
5	05			05
6	06			05
7	07			05
8	08			05

Scr1Lock | Scan | Skip | NCS

▶ [Selection Menu (選択メニュー)] でチャンネルを選択するには、以下の手順に従います。

1. (オプション) 現在のページにチャンネルが見つからない場合は、Page Down または Page Up を押して、前後のページに移動してください。
2. ↓ または ↑ を押して、選択するチャンネルにハイライトバーを移動させます。

ヒント：チャンネルの [No (番号)] 列に表示された該当番号を押すと、そのチャンネルをすばやくハイライトできます。

3. Enter を押します。

[Selection Menu (選択メニュー)] が消えます。アクセスしたコンピュータのビデオが画面に表示され、キーボードとマウスでコンピュータを制御できます。

MCCAT スイッチはリアルタイムでチャンネルを検出しません。現在のコンピュータを切断してアクセスしている別のチャンネルに再接続しないでください。アクセス先チャンネルでマウス入力またはキーボード入力の問題が発生する可能性があります。問題が発生した場合、問題を解決するために [Selection Menu (選択メニュー)] でチャンネルを再選択してください。

▶ [Selection Menu (選択メニュー)] で別のチャンネルを選択するには、以下の手順に従います。

1. 画面に OSD が表示されていない場合は、ホットキー (デフォルト: Scroll Lock) をすばやく 2 回押して、OSD を起動します。

- 別のチャンネルをハイライトし、Enter を押します。

[Selection Menu (選択メニュー)] の詳細については、『ユーザ ガイド』で「**Selection Menu (選択メニュー)**」『p. 30』を参照してください。

チャンネル ボタンの使用

前面パネルのボタンは、[Selection Menu (選択メニュー)] を使用してチャンネルにアクセスした後で起動します。MCCAT スイッチに直接接続されている入出力デバイスを操作している限り、前面パネルのボタンを使用できます。

注：2 段カスケード システムでは、「2 段目」の MCCAT スイッチの前面パネルのすべてのボタンが無効になり、2 段目のデバイスで使用できるのは OSD のみです。

▶ **チャンネル ボタンを押してチャンネルを選択するには、以下の手順に従います。**

- 画面上に OSD が表示されている場合は、表示されなくなるまで Esc を押します。
- アクセスするチャンネルのボタンを押します。
 - MCCAT28 チャンネル ボタン



- MCCAT216 チャンネル ボタン



アクセスしたコンピュータのビデオが画面に表示され、キーボードとマウスでコンピュータを制御できます。

ログアウト

MCCAT システムでのタスクの完了後は、システムからログアウトして、アクセスを許可されていない人がシステムにアクセスできないようにする必要があります。

▶ **MCCAT システムからログアウトするには、以下の手順に従います。**

- 画面に OSD が表示されていない場合は、ホット キー (デフォルト: Scroll Lock) をすばやく 2 回押して、OSD を起動します。
- F9 を押します。

[Lonin (ログイン)] ボックスが表示され、正常にログアウトしたことが表示されます。

3

OSD インタフェースの概要

OSD インタフェースには次の機能があります。

- チャンネルの選択
- システム設定
- 製品情報の表示

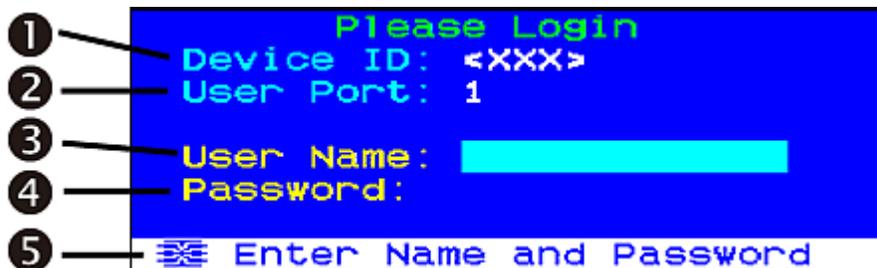
この章の内容

OSD のレイアウト.....	28
OSD の起動.....	31
ハイライト色の説明	31
チャンネルの色	31
OSD 操作キー	33

OSD のレイアウト

このセクションでは、OSD イメージに表示される主な要素について説明します。

[Login (ログイン)] ボックス

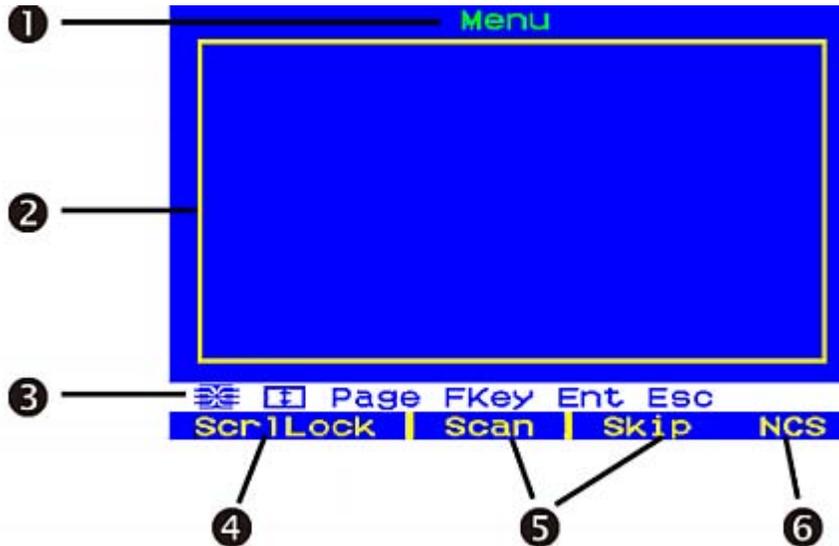


①	デバイス ID	操作している MCCAT スイッチの名前。工場出荷時のデフォルト設定はモデル名です。この名前はカスタマイズ可能です。詳細については、「 MCCAT スイッチの名前変更 」『p. 50』を参照してください。
②	ユーザ ポート	MCCAT スイッチおよび接続されたコンピュータにアクセスするために使用している現在の入出力デバイス*。 <ul style="list-style-type: none">• 1 は、MCCAT スイッチに直接接続されている入出力デバイスを示します。• 2 は、MCCAT スイッチの User 2 ポートに接続している MCCAT ユーザ ステーションに接続されている、入出力デバイスを示します。
③	ユーザ名	ログイン用の管理者アカウントまたはユーザ アカウントを入力するフィールド。
④	パスワード	ログイン用のパスワードを入力するフィールド。

⑤	メッセージ バー	現在の OSD 画面に関連するメッセージやプロンプトを表示する場所。
---	----------	------------------------------------

* 入力デバイスとは、キーボード、マウス、モニタを意味します。

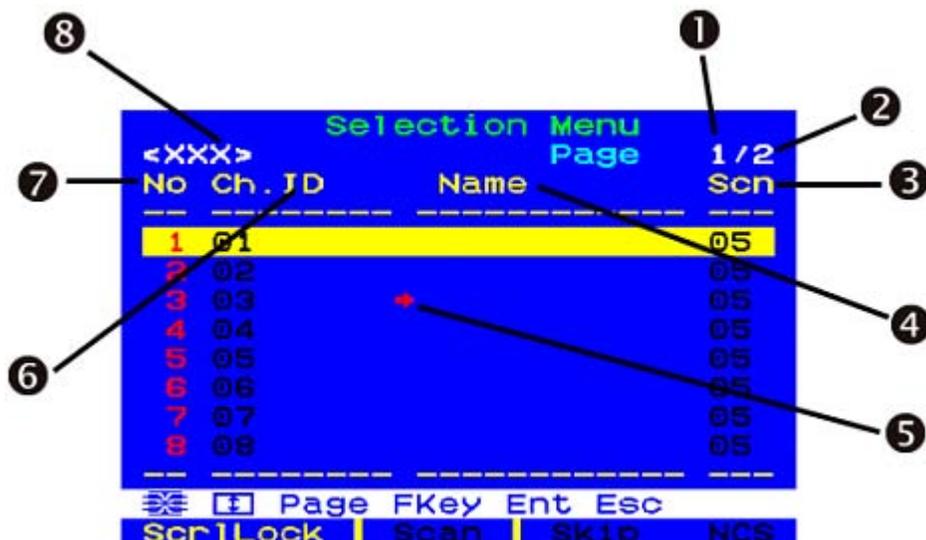
OSD のメニュー



①	メニューのタイトル	現在のメニューまたはサブメニューのタイトル。
②	データ表示領域	現在のメニューまたはサブメニューの情報や設定を表示する領域。
③	メッセージ バー	現在の OSD 画面に関連するメッセージやプロンプトを表示する場所。
④	現在のホット キー	OSD をアクティブにするホット キー。デフォルトは Scroll Lock (ScrlLock) です。
⑤	Scan および Skip 機能のステータス	Scan または Skip 機能がオンの場合、色が黄色に変わります。そうでない場合は、色は黒です。
⑥	N、C、および S のステータス	N は NumLock、C は Caps Lock、S は Scroll Lock を意味します。いずれかの機能がオンの場合、色が黄色に変わります。そうでない場合は、色は黒です。

Selection Menu (選択メニュー)

OSD メニューのメイン レイアウトに加え、チャンネルを検索して選択する場合に便利なその他の要素が [Selection Menu (選択メニュー)] に用意されています。



①	現在のページ番号	現在のページ番号。
②	ページの合計	ページの合計数。
③	Scn	各チャンネルのスキャン レート (秒単位)。 チャンネルが 2 段目の KVM スイッチに接続されている場合はダッシュ (- -) が表示されます。
④	Name (名前)	指定したチャンネル名があれば、その名前が表示されます。
⑤	チャンネル選択インジケータ	いずれかのチャンネルにアクセスしている場合は、赤い矢印が OSD に表示されて、アクセスしているチャンネルを示します。
⑥	Ch. ID (チャンネル ID)	チャンネルのポート番号。 [Selection Menu (選択メニュー)] をチャンネル名でソートしている場合は、各チャンネルのポート番号の前に MCCAT スイッチの名前が付けられます。
⑦	No (番号)	目的のチャンネルをすばやく選択するために押す番号。
⑧	デバイス名	チャンネルが画面に表示されている、現在の MCCAT スイッチの名前。出荷時のデフォルト設定はモデル名です。

ヒント : [Selection Menu (選択メニュー)] はデフォルトでチャンネル番号でソートされますが、チャンネル名を基準にしてソートすることができます。「チャンネルのソート基準の切り替え 『p. 37』」を参照してください。

OSD の起動

チャンネルを選択した後、OSD は消えます。別のチャンネルを選択する、またはシステムの設定を変更するには、OSD を起動する必要があります。

▶ **OSD を起動するには、以下の手順に従います。**

- ホット キー (デフォルト : Scroll Lock) を 2 回すばやく押します。

Scroll Lock 以外のホットキーを割り当てることができます。「**ホット キーの変更**」『p. 52』を参照してください。

ハイライト色の説明

特定のメニューやサブメニューの設定を変更している場合には、ハイライト バーの色を変更して異なるステータスを示すことができます。

1. 最初のハイライトの色は**黄色**です。これは現在のフィールドを変更できないことを示します。
2. Enter を押すとハイライトの色が**緑**または**水色**に変わります。これは現在のフィールドが**変更可能**であることを示します。
3. 変更を加えた後で Enter または Esc を押してハイライトの色を**黄色**に戻し、現在のフィールドが**変更できない**ことを示します。
Enter と Esc の違いは以下のとおりです。
 - Enter を押すと、フィールドへの変更内容の保持を確認したことになります。
 - Esc を押すと、フィールドへの変更内容を破棄し、フィールドはオリジナルの値、またはオプションに戻ります。

チャンネルの色

[Selection Menu (選択メニュー)] の異なるチャンネルの色は、それぞれ別のチャンネル ステータスを表します。チャンネルの色は、次の基準に従って変わります。

- チャンネルがアクティブであるか、または非アクティブであるか。「**アクティブ チャンネルおよび非アクティブ チャンネルとは**」『p. 32』を参照してください。
- チャンネルがアクセスされているか、いないか。

*注 : MCCAT システムでは、自動検知によるチャンネル ステータスのリアルタイムの更新は行いません。最新のチャンネル ステータスを取得するには、チャンネル ステータスを更新してください。「**チャンネル ステータスの更新**」『p. 46』を参照してください。*

アクティブ チャンネルおよび非アクティブ チャンネルとは

チャンネルの色を左右する要素の 1 つが、チャンネルがアクティブであるか、非アクティブであるかです。アクティブ/非アクティブは、チャンネルに接続されている CIM または MCUTP ケーブルの電源ステータスに基づいて変わります。ここでは、アクティブ チャンネルおよび非アクティブ チャンネルの定義を説明します。

アクティブ チャンネル

MCCAT スイッチは、電源がオンの CIM または MCUTP ケーブル (PS/2 キーボードまたは USB ポート経由でコンピュータまたはデバイスから電力供給される) にチャンネル ポートが接続されていることを検知すると、チャンネルがアクティブであると認識します。

この場合は、CIM または MCUTP ケーブルは常に電力供給されてます。

- CIM または MCUTP の PS/2 キーボードまたは USB コネクタは、電源がオンのコンピュータまたはデバイスに接続されています。

CIM または MCUTP ケーブルは、電源がオフのコンピュータに接続された場合に、電力供給される場合とされない場合があります。電源ステータスはコンピュータの設計に応じて変わります。

ヒント：コンピュータまたはデバイスの電源が入っているかどうかは、CIM の LED で確認できます。電源が入っている場合、LED は点滅しています。電源が入っていない場合、LED のライトはオフのままです。

非アクティブ チャンネル

MCCAT スイッチは、電源がオンの CIM または MCUTP ケーブルにチャンネル ポートが接続されていることを検知しない場合に、チャンネルが非アクティブであると認識します。たとえば、以下の場合が考えられます。

- CIM または MCUTP ケーブルがチャンネル ポートに接続されていない。
- CIM または MCUTP ケーブルはチャンネル ポートに接続されているが、PS/2 キーボードまたは USB コネクタがコンピュータまたはデバイスに接続されていないため電力供給されていない。

CIM または MCUTP ケーブルは、電源がオフのコンピュータに接続された場合に、電力供給される場合とされない場合があります。電源ステータスはコンピュータの設計に応じて変わります。

チャンネルの色とステータス

以下の表に、チャンネル ステータスと対応するチャンネルの色を示します。

色	チャンネル ステータス
黒	非アクティブ チャンネルです。
緑	<p>アクセス可能なアクティブ チャンネルです。</p> <ul style="list-style-type: none"> プライベート モードでは、他のユーザがアクセスしていない限りアクティブ チャンネルは緑です。 PC 共有モードでは、他のユーザがアクセスしているか否かにかかわらず、すべてのアクティブ チャンネルは緑です。
赤	<p>アクセスできないアクティブ チャンネルまたは非アクティブ チャンネルです。</p> <ul style="list-style-type: none"> プライベート モードでは、他のユーザがアクセスしているチャンネルは赤です。チャンネルが 2 段目のデバイスに接続されている場合は、該当する 2 段目のデバイスのすべてのチャンネルが赤になります。 PC 共有モードでは、他のユーザがアクセスしている 2 段目のデバイスにチャンネルが接続されている場合に赤になります。また、アクセスされている 2 番目のデバイスのすべてのチャンネルが赤になります。

OSD 操作キー

システムのログイン時に画面に OSD が表示された場合、以下のキーを使用して、別のメニューまたはページの表示、フィールドまたはチャンネルの選択、変更などを実行できます。

▶ **メニューを切り替えるには以下の手順に従います。**

キー	機能
F1	[Help Menu (ヘルプ メニュー)] に切り替えます。
F2	[Selection Menu (選択メニュー)] に切り替えます
F5*	[Administration Menu (管理メニュー)] に切り替えます

* 管理者のみが「**Administration Menu (管理メニュー)**」『p. 47の"システム設定"参照』へのアクセス権を持ちます。

▶ ページを切り替えるには、以下の手順に従います。

キー	機能
Page Up	前のページに移動します
Page Down	次のページに移動します
Home	最初のページに移動します
End	最後のページに移動します

▶ フィールドまたはチャンネルを選択するには、以下の手順に従います。

キー	機能
Tab*	前方向に移動します
Shift+Tab*	後ろ方向に移動します
矢印キー (↑、↓、←、→)	ハイライト バーを移動します
Enter	フィールドまたはチャンネルの選択内容を確認します

* キーまたはキーの組み合わせは [Selection Menu (選択メニュー)] に適用されません。

▶ 選択したフィールドの値またはオプションを変更するには、以下の手順に従います。

キー	機能
矢印キー (↑、↓、←、→)	使用可能なオプションを切り替えたり、ハイライトの色が緑になった場合は特定のフィールドの数値を調整します
Enter	現在の選択内容または変更内容を確認します
Esc	現在の選択内容または変更内容をキャンセルします

▶ メニューまたはシステムを終了するには、以下の手順に従います。

キー	機能
Esc	現在のメニューまたはサブメニューを終了します
F9	MCCAT システムからログアウトします

▶ その他

キー	機能
F6	スキャン機能のオンとオフを切り替えます。
F7	スキップ機能のオンとオフを切り替えます。
S	現在のメニューまたはサブメニューへの変更を保存します
G	2 段カスケード システムの 2 段目のデバイスの [Channel Configuration (チャンネル設定)] サブメニューにアクセスします

4

高度な操作

この章では、前面パネルの操作や OSD の操作など MCCAT スイッチのその他の機能について説明します。

機能を実行するためには、システムにログインする必要があります。ログインの手順については、「**ログイン**」[p. 23]を参照してください。

MCCAT システムが 2 段カスケード システムの場合は、必ず以下のガイドラインに従ってください。

- 2 段目の MCCAT スイッチのすべてが 2 段目のデバイスとして設定されていること。

そうしないと、MCCAT ベース スイッチで実行する操作または設定が、システム全体に反映されずにベース スイッチのみに適用されます。設定手順については、「**手順 (A): MCCAT スイッチを 2 段目のデバイスとして設定する**」[p. 64の"手順 (A):MCCAT スイッチを 2 段目のデバイスとして設定する"参照]を参照してください。

- 常に MCCAT のベース スイッチ (1 段目) で、操作または設定を行うこと。

この章の内容

チャンネルのソート基準の切り替え	37
チャンネルの循環	38
アクティブ チャンネルのみへのアクセス	40
コンピュータの共有	42
[Help (ヘルプ)] メニューの起動	43
Sun サーバのサポート	44
チャンネル ステータスの更新	46

チャンネルのソート基準の切り替え

[Selection Menu (選択メニュー)] はデフォルトでチャンネル番号でソートされますが、チャンネル名を基準にしてソートすることができます。

▶ チャンネルのソート基準を切り替えるには、以下の手順に従います。

- [Selection Menu (選択メニュー)] が表示されている場合は、F12 を押します。

[Selection Menu (選択メニュー)] が現在のソート基準から別のソート基準に切り替わります。

チャンネル番号別のソート基準

Selection Menu			
<XXX>	Page	1/2	
No	Ch. ID	Name	Scn
1	01	Win Vista	05
2	02	Win XP	05
3	03	Win 2000	05
4	04	Linux	05
5	05	Unix	05
6	06	Sun	05
7	07	HP	05
8	08	Email server	05

Page FKey Ent Esc
ScrLock Scan Skip NCS

チャンネル名別のソート基準

Selection Menu by Name		
Name	Ch. ID	Page
		1/2
Email server	<XXX>.08	
HP	<XXX>.07	
Linux	<XXX>.04	
Sun	<XXX>.06	
Unix	<XXX>.05	
Win 2000	<XXX>.03	
Win Vista	<XXX>.01	
Win XP	<XXX>.02	

Page PCName FKey Ent Esc
ScrLock Scan Skip NCS

ヒント : [Selection Menu (選択メニュー)] がチャンネル名でソートされる場合は、目的のチャンネル名の最初の 1, 2 文字を入力すると、その文字で始まる名前をすばやく検索できます。

チャンネルの循環

スキャン機能をオンにして、すべてのコンピュータのビデオを 1 つずつ画面に自動表示することができます。2 段目のデバイスが接続されているチャンネルポートがスキャンされた場合は、該当する 2 段目のデバイスのすべてのチャンネルがスキャンされた後で、ベーススイッチの次のチャンネルがスキャンされます。

チャンネルステータスはチャンネルのスキャン後に更新されるため、最新のチャンネルステータスを取得する必要がある場合はチャンネルスキャンを実行できます。

注：前面パネル LED で表示されるチャンネルステータスを更新する場合は、MCCAT スイッチに直接接続されている入出力デバイスを使用して、スキャン機能をオンにする必要があります。

使用している入出力デバイスのセットに応じて、スキャン機能をオンにする方法がそれぞれ以下のように異なります。

MCCAT スイッチに直接接続された入出力デバイス进行操作する場合は、以下を押します。

- 前面パネルの SCAN ボタン、または
- 画面に OSD が表示されている場合には、ファンクション キーの F6

MCCAT ユーザステーション経由で MCCAT スイッチに接続された入出力デバイスを操作する場合は、以下を押します。

- 画面に OSD が表示されている場合には、ファンクション キーの F6

ヒント：スキャンレートをカスタマイズできます。詳細については、「スキャンレートの変更」[p. 49]を参照してください。

チャンネルのスキャン中、チャンネルのボタンは無効になります。チャンネルボタンを使用してチャンネルにアクセスするには、まずスキャン機能をオフにします。

SCAN ボタンの使用

前面パネルのボタンは、[Selection Menu (選択メニュー)] を使用してチャンネルにアクセスした後で起動します。MCCAT スイッチに直接接続されている入出力デバイスを操作している限り、前面パネルのボタンを使用できます。

注：2 段カスケード システムでは、「2 段目」の MCCAT スイッチの前面パネルのすべてのボタンが無効になり、2 段目のデバイスで使用できるのは OSD のみです。

▶ スキャン機能をオンにするには、以下の手順に従います。

1. 画面上に OSD が表示されている場合は、表示されなくなるまで Esc を押します。
2. 前面パネルの SCAN ボタンを押すと、ボタンが点灯します。



各チャンネルのビデオが 1 つずつ画面に表示されます。スキャンされているチャンネルの名前と番号が数秒間表示されます。

ヒント：“アクティブ”チャンネルのみスキャンすることでスキャンの全体の時間を短縮できます。詳細については、「アクティブチャンネルのみへのアクセス [p. 40]」を参照してください。

▶ スキャン機能をオフにするには、以下の手順に従います。

1. 画面上に OSD が表示されている場合は、表示されなくなるまで Esc を押します。
2. 再度 SCAN ボタンを押すと、ボタンのライトが消えます。

システムはスキャンを停止し、画面にスキャンされたチャンネルのビデオが表示されず。

F6 ファンクション キーの使用

▶ スキャン機能をオンにするには、以下の手順に従います。

1. 画面に OSD が表示されていない場合は、ホット キー (デフォルト: Scroll Lock) をすばやく 2 回押して、OSD を起動します。
2. F6 を押します。OSD の下部のスキャン ステータスが黄色に変わります。

3. Esc キーを押して、OSD を終了します。

各チャンネルのビデオが 1 つずつ画面に表示されます。スキャンされているチャンネルの名前と番号が数秒間表示されます。

ヒント："アクティブ" チャンネルのみをスキャンすることでスキャンの全体の時間を短縮できます。詳細については、「**アクティブ チャンネルのみへのアクセス**」(p. 40)を参照してください。

▶ **スキャン機能をオフにするには、以下の手順に従います。**

1. 画面に OSD が表示されていない場合は、ホット キー (デフォルト: Scroll Lock) をすばやく 2 回押して、OSD を起動します。
2. 再度 F6 を押します。OSD の下部のスキャン ステータスが黒色に変わります。

アクティブ チャンネルのみへのアクセス

チャンネルのスキャン時、または手動での選択時に非アクティブ チャンネルにアクセスしないようにするには、スキップ機能をオンにします。

スキャン機能がオンの場合とオフの場合では、システムの動作が異なります。

- **スキャン機能がオンの場合**

システムは非アクティブ チャンネルのすべてをスキップして、アクティブ チャンネルのみをスキャンします。「**アクティブ チャンネルおよび非アクティブ チャンネルとは**」(p. 32)を参照してください。

- **スキャン機能がオフの場合**

[Selection Menu (選択メニュー)] に緑色で表示されているアクティブ チャンネルのみをユーザが選択できます。

または、非アクティブ チャンネルのチャンネル ボタンを押すと、選択したチャンネルではなく、使用可能な次のアクティブ チャンネルにアクセスします。

使用している入出力デバイスのセットに応じて、スキップ機能をオンにする方法がそれぞれ以下のように異なります。

MCCAT スイッチに直接接続された入出力デバイス进行操作する場合は、以下を押します。

- 前面パネルの SKIP ボタン、または
- 画面に OSD が表示されている場合には、ファンクション キーの F7

MCCAT ユーザ ステーション経由で MCCAT スイッチに接続された入出力デバイス进行操作する場合は、以下を押します。

- 画面に OSD が表示されている場合には、ファンクション キーの F7

SKIP ボタンの使用

前面パネルのボタンは、[Selection Menu (選択メニュー)] を使用してチャンネルにアクセスした後で起動します。MCCAT スイッチに直接接続されている入出力デバイスを操作している限り、前面パネルのボタンを使用できます。

注：2 段カスケード システムでは、「2 段目」の MCCAT スイッチの前面パネルのすべてのボタンが無効になり、2 段目のデバイスで使用できるのは OSD のみです。

▶ スキップ機能をオンにするには、以下の手順に従います。

1. 画面上に OSD が表示されている場合は、表示されなくなるまで Esc を押します。
2. 前面パネルの SKIP ボタンを押すと、ボタンが点灯します。



▶ スキップ機能をオフにするには、以下の手順に従います。

1. 画面上に OSD が表示されている場合は、表示されなくなるまで Esc を押します。
2. 再度 SKIP ボタンを押すと、ボタンのライトが消えます。

F7 ファンクション キーの使用

▶ スキップ機能をオンにするには、以下の手順に従います。

1. 画面に OSD が表示されていない場合は、ホット キー (デフォルト: Scroll Lock) をすばやく 2 回押して、OSD を起動します。
2. F7 を押します。OSD の下部のスキップ ステータスが黄色に変わります。
3. Esc キーを押して、OSD を終了します。

▶ スキップ機能をオフにするには、以下の手順に従います。

1. 画面に OSD が表示されていない場合は、ホット キー (デフォルト: Scroll Lock) をすばやく 2 回押して、OSD を起動します。
2. 再度 F7 を押します。OSD の下部のスキップ ステータスが黒色に変わります。

コンピュータの共有

製品には 2 つの操作モードがあります。プライベートおよび PC 共有モード。プライベートモードでは、一度に 1 つのチャンネルにアクセスできるのは 1 人のユーザーに限られます。これに対して PC 共有モードでは、複数のユーザーが同じチャンネルに同時にアクセスできます。

PC 共有モードは、次のいずれかの場合に機能します。

- 管理者が「**PC 共有モード**」[p. 53の"操作モードの変更"参照]をオンにした場合。
- "2 段階目" のデバイスのチャンネルにアクセスしている場合。

注: PC 共有モードは、ベーススイッチで選択された操作モードに関係なく、2 段階目のデバイスに自動的に適用されます。ベーススイッチのユーザーは、2 段階目のデバイスに直接接続された入出力デバイス进行操作している "ローカル" ユーザーと 2 段階目のチャンネルを共有できます。

▶ コンピュータを共有するには、以下の手順に従います。

1. PC 共有モードが起動している、または適用されていることを確認してください。
2. これで、もう 1 人のユーザーと同じチャンネルを共有できるようになりました。チャンネルへのアクセス順序により、コンピュータを制御できるかどうかが決まります。
 - もう 1 人のユーザーより早くコンピュータにアクセスした場合、自分でコンピュータを制御することが可能で、もう 1 人のユーザーはビデオを表示できます。
 - もう 1 人のユーザーより遅くコンピュータにアクセスした場合は、もう 1 人のユーザーがコンピュータを制御することができ、自分はビデオを表示できるのみになります。

▶ コンピュータの制御を解放するには、以下の手順に従います。

コンピュータを制御しているユーザーは、次のいずれかを行ってコンピュータの制御を解放できます。

- 別のチャンネルを選択するか、ログアウトして、チャンネルを終了する。
- コンピュータを制御しているユーザーと他のユーザーの両方が、キーボードおよびマウスの使用を 5 秒間やめる。

コンピュータの制御が解放されると、最初にキーボード入力したユーザー、またはマウスを動かしたユーザーがコンピュータの制御を獲得します。

注: コンピュータの制御がユーザーの一人に移動するときは、キーボードまたはマウスでの最初の入力がコンピュータで処理されないことは一般的です。

[Help (ヘルプ)] メニューの起動

OSD が画面に表示されているときは、いつでもヘルプを表示できます。Help (ヘルプ) メニューには以下の内容が表示されます。

- OSD のファンクション キーとその簡単な説明
- 以下の製品情報
 - ファームウェアのバージョン
 - ハードウェアのバージョン
 - FPGA のバージョン
 - シリアル番号

```
Help/Information
F1 Help / ESC Exit
F2 Channel Selection
F5 Administrative Functions
F6 Toggle Scan On/Off
F7 Toggle Skip On/Off
F9 Logout
F12 Sort by Channel/Name

Firmware Ver: 2A16
Hardware Ver: 01
FPGA Ver: 011
Serial Number: AG62222345
FKey Esc
Scr1Lock | Scan | Skip | NCS
```

▶ [Help (ヘルプ)] メニューにアクセスするには、以下の手順に従います。

1. 画面に OSD が表示されていない場合は、ホット キー (デフォルト: Scroll Lock) をすばやく 2 回押して、OSD を起動します。
2. F1 を押します。

Sun サーバのサポート

製品は Sun サーバをサポートします。Sun サーバに接続するには、Sun サーバ用の CIM または MCUTP ケーブル、つまり DCIM-USB G2 または MCUTPxx-SUSB を使用する必要があります。xx はケーブルの長さを表します。

▶ **MCUTPxx-SUSB ケーブルを使用して Sun サーバに接続するには、以下の手順に従います。**

- セクション「**接続の確立**『p. 16』」の手順 2 と 3 を参照してください。

▶ **DCIM-USB G2 を使用して Sun サーバに接続するには、以下の手順に従います。**

1. DCIM-USB G2 の背面のスライド スイッチを右側に動かし、S の文字が見えるようにします。「S」は Sun サーバを表します。
2. DCIM-USB G2 を Sun サーバに接続します。
 - CIM の USB コネクタを Sun サーバの使用可能な USB ポートのいずれかに接続します。
 - CIM のビデオ コネクタを Sun サーバの VGA ポートに接続します。
3. 標準の Cat5 UTP ケーブル経由で、Sun サーバを MCCAT スイッチのチャンネル ポートのいずれかに接続します。
 - Cat5 UTP ケーブルの一端を Sun サーバに接続されている CIM の RJ-45 ポートに接続します。
4. Cat5 UTP のもう一方の端を MCCAT スイッチのチャンネル ポートの一端に接続します。

ラリタンでは、MCCAT スイッチに直接接続された Sun USB キーボードの使用を推奨します。こうすると、Props や Front などの特殊な Sun キーを活用できます。これらのキーが正しく動作しない場合は、別の解決策について「**特殊な Sun キーのエミュレート**『p. 44』」を参照してください。

特殊な Sun キーのエミュレート

Again キーや Props キーなどの特殊な Sun キーは、通常のキーボードでは使用できません。Sun 製でないキーボードを使用している場合や、Sun キーボードのキーが正しく動作しない場合に、MCCAT スイッチではコンビネーション キーを使用してキーをエミュレートできます。

Sun キーをエミュレートする場合

特殊な Sun キーをエミュレートするのは、キーを使用できない場合やキーが正しく動作しない場合です。

Sun キーボードを MCCAT スイッチに接続している場合、キーボード信号がスイッチの **User 2** ポートを介して渡されると特殊な Sun キーが動作しません。

以下のような場合は、コンビネーション キーを使用して特殊なキーをエミュレートする必要があります。

- 通常のキーボードを使用して Sun サーバを制御している場合。
- 使用する Sun キーボードが、MCCAT スイッチの **User 2** ポートを介してキーボード信号を送信する MCCAT ユーザ ステーションに接続されている場合。
- **User 2** ポートを介してベース スイッチと通信する "2 段目のデバイス" に接続された Sun サーバにアクセスしている場合。

コンビネーション キーの表

次の表は、特殊な Sun キーに対応するコンビネーション キーの一覧です。

Sun キー	コンビネーション キー
Again	Ctrl + Alt + F2
Props	Ctrl + Alt + F3
Undo	Ctrl + Alt + F4
Front	Ctrl + Alt + F5
Copy	Ctrl + Alt + F6
Open	Ctrl + Alt + F7
Paste	Ctrl + Alt + F8
Find	Ctrl + Alt + F9
Cut	Ctrl + Alt + F10
Help	Ctrl + Alt + F11
Mute	Ctrl + Alt + F12
Compose	Ctrl + Alt + * (キーボードのアスタリスク記号)
Volume +	Ctrl + Alt + + (キーボードの + 記号)
Volume -	Ctrl + Alt + - (キーボードの - 記号)
Stop	Pause/Break

チャンネル ステータスの更新

MCCAT システムでは、チャンネルの交換やコンピュータの電源のオン/オフなど、ハードウェア構成を物理的に変更した後、自動的にチャンネル ステータスを更新できません。最新のチャンネル ステータスを取得するには、以下のいずれかを行います。

- 多くのチャンネルが影響を受ける場合 :
 - MCCAT システムの電源をオフにしてからオンにして電源を入れなおす。
 - すべてのチャンネルが少なくとも 1 度スキャンされるまでスキャン機能を実行する。「[チャンネルの循環](#)」[p. 38]を参照してください。
- 影響を受けるチャンネルが少ない場合は、それらのチャンネルに 1 つずつアクセスしてチャンネル ステータスを更新します。「[コンピュータまたはチャンネルへのアクセス](#)」[p. 24]を参照してください。

5

システム設定

Administration Menu (管理メニュー) で MCCAT システム設定を調整できます。このメニューにアクセスできるのは管理者に限られるため、管理者アカウントを使用してログインする必要があります。デフォルトでは、管理者アカウントのユーザ名とパスワードは以下のとおりです。

- ユーザ名 :*admin*
- パスワード :*raritan*

MCCAT システムが 2 段カスケード システムの場合は、必ず以下のガイドラインに従ってください。

- 2 段目の MCCAT スイッチのすべてが 2 段目のデバイスとして設定されていること。

そうしないと、MCCAT ベース スイッチで実行する操作または設定が、システム全体に反映されずにベース スイッチのみに適用されます。設定手順については、「**手順 (A): MCCAT スイッチを 2 段目のデバイスとして設定する**『p. 64の"手順 (A):MCCAT スイッチを 2 段目のデバイスとして設定する"参照』を参照してください。

- 常に MCCAT のベース スイッチ (1 段目) で、操作または設定を行うこと。

この章の内容

チャンネル名の割り当てと変更	48
スキャン レートの変更.....	49
MCCAT スイッチの名前変更	50
パスワードの変更	51
ホット キーの変更	52
操作モードの変更	53
グリーン モードのセットアップ.....	54
ログオフ タイムアウト機能のセットアップ.....	55
[Login (ログイン)] ボックスの消去	56
ユーザ アカウントの管理	57
チャンネル ID の表示機能のセットアップ.....	59
OSD メニューの位置の調整	61
システム設定のリセット	62

チャンネル名の割り当てと変更

デフォルトでは、接続されたデバイスのチャンネル名が [Selection Menu (選択メニュー)] に表示されません。選択できるのはポート番号のみです。適切なチャンネル名がなければ、コンピュータやデバイスを容易に識別できません。このため、接続されたコンピュータまたはデバイスごとにチャンネル名を指定する必要があります。

▶ **チャンネル名を指定または変更するには、以下の手順に従います。**

1. 画面に OSD が表示されていない場合は、ホット キー (デフォルト: Scroll Lock) をすばやく 2 回押して、OSD を起動します。
2. F5 を押します。[Administration Menu (管理メニュー)] が表示されます。
3. サブメニューの 3 番目にある [Channel Configuration (チャンネル設定)] を選択します。サブメニューを選択するには、3 を押すか、**↓** を押してメニュー項目をハイライトし、Enter を押します。[Channel Configuration (チャンネル設定)] サブメニューが表示されます。
4. (オプション) 現在のページにチャンネルが見つからない場合は、Page Down または Page Up を押して、前後のページに移動してください。
5. **↓** または **↑** を押して、変更するチャンネル名をハイライトし、Enter を押します。黄色のハイライトが青に変わります。
6. 新しいチャンネル名を 12 文字以内で入力します。文字を入力すると、ハイライトの色が緑に変わります。
7. Enter を押して新しい名前を確認します。再度、ハイライトの色が黄色に変わります。
8. 手順 4 ~ 7 を繰り返し、その他のチャンネル名を変更します。
9. S を押して変更を保存するか、Esc を押して現在のメニューまたはサブメニューを閉じます。
 - Esc を押すと、メッセージ バーに「Save the changes: [Y/N/ESC] (変更を保存しますか : [Y/N/ESC])」というメッセージが表示されます。変更を保存するには Y を、変更を中止するには N を、現在のメニューまたはサブメニューに戻るには Esc を押します。

注 : 2 段カスケード システムの 2 段目のデバイスのチャンネルに名前を付ける際の詳細については、「2 段目のチャンネルのセットアップ」 [p. 69] を参照してください。

スキャン レートの変更

スキャン機能がオンの場合、システムはデフォルトで 5 秒間各チャンネルをスキャンします。各チャンネルのスキャン レートを変更できます。有効な値は 5 ~ 24 秒です。

▶ **スキャン レートを変更するには、以下の手順に従います。**

1. 画面に OSD が表示されていない場合は、ホット キー (デフォルト: Scroll Lock) をすばやく 2 回押して、OSD を起動します。
2. F5 を押します。[Administration Menu (管理メニュー)] が表示されます。
3. サブメニューの 3 番目にある [Channel Configuration (チャンネル設定)] を選択します。サブメニューを選択するには、3 を押すか、↓ を押してメニュー項目をハイライトし、Enter を押します。[Channel Configuration (チャンネル設定)] サブメニューが表示されます。
4. (オプション) 現在のページにチャンネルが見つからない場合は、Page Down または Page Up を押して、前後のページに移動してください。
5. ↓ または ↑ を押して、変更するスキャン レートのチャンネルをハイライトします。
6. Tab または → を押して、[Scn (スキャン)] 列のフィールドを選択し、Enter を押します。ハイライトされた色が緑に変わります
7. 矢印キーを押して数字を 1 つずつ調整するか、2 桁の数字を入力します。続いて、Enter を押します。ハイライトの色が黄色に変わります。
8. 手順 4 ~ 7 を繰り返し、その他のチャンネルのスキャン レートを変更します。
9. S を押して変更を保存するか、Esc を押して現在のメニューまたはサブメニューを閉じます。
 - Esc を押すと、メッセージ バーに「Save the changes: [Y/N/ESC] (変更を保存しますか : [Y/N/ESC])」というメッセージが表示されます。変更を保存するには Y を、変更を中止するには N を、現在のメニューまたはサブメニューに戻るには Esc を押します。

MCCAT スイッチの名前変更

デフォルトでは、各 MCCAT スイッチのデバイス名は、スイッチのモデル名です。デバイスを識別しやすいように、名前をカスタマイズできます。

*注：デバイス名には *、&、%、<> などの特殊文字は使用できません。*

▶ **MCCAT スイッチの名前を変更するには、以下の手順に従います。**

1. 画面に OSD が表示されていない場合は、ホット キー (デフォルト: Scroll Lock) をすばやく 2 回押して、OSD を起動します。
2. F5 を押します。[Administration Menu (管理メニュー)] が表示されます。
3. サブメニューの 1 番目にある [System Configuration (システム設定)] を選択します。サブメニューを選択するには、1 を押すか、↓ または ↑ を押して、サブメニューをハイライトし、Enter を押します。
4. Tab または Shift + Tab を押して、[Device ID (デバイス ID)] フィールドをハイライトし、Enter を押します。ハイライトされた色が緑に変わります
5. 12 文字以内で新しい名前を入力し、Enter を押します。ハイライトの色が黄色に変わります。
6. S を押して変更を保存するか、Esc を押して現在のメニューまたはサブメニューを閉じます。
 - Esc を押すと、メッセージ バーに「Save the changes: [Y/N/ESC] (変更を保存しますか : [Y/N/ESC])」というメッセージが表示されます。変更を保存するには Y を、変更を中止するには N を、現在のメニューまたはサブメニューに戻るには Esc を押します。

注：2 段カスケード システムでは、このセクションの手順に従ってベース スイッチ名を指定します。ただし、2 段目の MCCAT スイッチは、それぞれにベース スイッチの対応するチャンネル名を指定して名前を付けます。「チャンネル名の割り当てと変更 [p. 48]」を参照してください。

パスワードの変更

MCCAT システムを安全にご使用いただくために、デフォルト パスワードの変更を強く推奨します。

管理者アカウント (Admin) のデフォルトのパスワードは「raritan」(すべて小文字) です。また、ユーザ アカウントのパスワードはデフォルトでは設定されていません。

▶ **パスワードを変更するには、以下の手順に従います。**

1. 画面に OSD が表示されていない場合は、ホット キー (デフォルト: Scroll Lock) をすばやく 2 回押して、OSD を起動します。
2. F5 を押します。[Administration Menu (管理メニュー)] が表示されます。
3. サブメニュー の 2 番目、[User Configuration (ユーザ設定)] を選択します。サブメニューを選択するには、2 を押すか、↓ または ↑ を押して、サブメニューをハイライトし、Enter を押します。[User Configuration (ユーザ設定)] サブメニューが表示されます。
4. ↓ または ↑ を押して、パスワードを変更するユーザのユーザ アカウントをハイライトします。
5. P を押します。「Enter old password (古いパスワードを入力してください)」というメッセージがメッセージ バーに表示されます。
6. 現在のパスワードを入力して Enter を押します。パスワードは、大文字と小文字が区別されます。
 - パスワードがない場合は、Enter または Esc を押します。
7. 「Enter new password (新しいパスワードを入力してください)」というメッセージがメッセージ バーに表示されます。新しいパスワードを 8 文字以内で入力し、Enter を押します。
8. 「Confirm password (パスワードの確認)」というメッセージがメッセージ バーに表示されます。再度、新しいパスワードを入力し、Enter を押します。
 - メッセージ バーに「Password Changed (パスワードが変更されました)」というメッセージが表示され、パスワードが正常に変更されたことを示します。
9. 他のユーザ アカウントのパスワードを変更するには、手順 4 ~ 8 を繰り返します。

重要 :新しいパスワードを書きとめ、安全な場所に保管してください。パスワードを忘れた場合、パスワードを再取得する方法はありません。ユーザ アカウントを削除してから、新しいアカウントを作りなおす必要があります。

ホット キーの変更

OSD が画面に表示されていない場合は、ホット キーを使用して OSD を起動します。デフォルトのホット キーは Scroll Lock です。Scroll Lock 以外のキーをホット キーとして割り当てることができます。たとえば、Scroll Lock、Left Alt、Left Shift、Caps Lock、Num Lock などをホット キーにすることができます。

▶ **ホット キーの設定を変更するには、以下の手順に従います。**

1. 画面に OSD が表示されていない場合は、ホット キー (デフォルト: Scroll Lock) をすばやく 2 回押して、OSD を起動します。
2. F5 を押します。[Administration Menu (管理メニュー)] が表示されます。
3. サブメニューの 1 番目にある [System Configuration (システム設定)] を選択します。サブメニューを選択するには、1 を押すか、↓ または ↑ を押して、サブメニューをハイライトし、Enter を押します。
4. Tab または Shift+Tab を押して、[Hotkey (ホット キー)] フィールドをハイライトし、Enter を押します。ハイライトされた色が緑に変わります
5. 使用できるオプションを切り替えるには任意の矢印キーを押し、Enter を押して選択内容を確認します。ハイライトの色が黄色に変わります。
6. S を押して変更を保存するか、Esc を押して現在のメニューまたはサブメニューを閉じます。
 - Esc を押すと、メッセージ バーに「Save the changes: [Y/N/ESC] (変更を保存しますか : [Y/N/ESC])」というメッセージが表示されます。変更を保存するには Y を、変更を中止するには N を、現在のメニューまたはサブメニューに戻るには Esc を押します。

重要 : 2 段カスケード システムでは、ベース スイッチおよび 2 段目の MCCAT スイッチの各々に直接接続されたキーボードを使用してログインし、ホット キーの割り当てを 1 つずつ変更する必要があります。

操作モードの変更

MCCAT システムには、プライベート モードおよび PC 共有モードの 2 つの操作モードがあります。

- プライベート モード : 1 人のユーザがアクセスしているチャンネルは、そのユーザがチャンネルを終了するまで他のユーザは同じチャンネルにアクセスできません。
- PC 共有モード : 複数のユーザが同じチャンネルに同時にアクセスできます。最初にキーボードのいずれかのキーを押したか、マウスを移動したユーザがコンピュータを制御することができ、他のユーザはビデオを表示するだけです。詳細については「**コンピュータの共有**」[p. 42]を参照してください。

▶ **操作モードを変更するには、以下の手順に従います。**

1. 画面に OSD が表示されていない場合は、ホット キー (デフォルト: Scroll Lock) をすばやく 2 回押して、OSD を起動します。
2. F5 を押します。[Administration Menu (管理メニュー)] が表示されます。
3. サブメニューの 1 番目にある [System Configuration (システム設定)] を選択します。サブメニューを選択するには、1 を押すか、↓ または ↑ を押して、サブメニューをハイライトし、Enter を押します。
4. Tab または Shift+Tab を押して、[Operation Mode (操作モード)] フィールドをハイライトし、Enter を押します。ハイライトされた色が緑に変わります
5. 使用できるオプションを切り替えるには任意の矢印キーを押し、Enter を押して選択内容を確認します。ハイライトの色が黄色に変わります。
6. S を押して変更を保存するか、Esc を押して現在のメニューまたはサブメニューを閉じます。
 - Esc を押すと、メッセージ バーに「Save the changes: [Y/N/ESC] (変更を保存しますか : [Y/N/ESC])」というメッセージが表示されます。変更を保存するには Y を、変更を中止するには N を、現在のメニューまたはサブメニューに戻るには Esc を押します。

重要 : ベース スイッチで **PC 共有モード** をオンにした場合でも、ベース スイッチにログインしているもう 1 人のユーザと 2 段目のデバイスの同一チャンネルを共有することはできません。詳細については、「**2 段カスケード システムの制限**」[p. 71]を参照してください。

グリーン モードのセットアップ

グリーン モードはモニタのパワーセーブ モードです。MCCAT システムではユーザがチャンネルにアクセスした後、事前に設定した時間キーストロークまたはマウスの操作が検出されなければ、グリーン モードに入り、画面はブランクになります。この機能をオン/オフに切り替えたり、システムがグリーン モードになるまでのキーボードおよびマウスの休止時間を変更したりできます。

▶ **グリーン モードをオンにし、タイミングを調整するには、以下の手順に従います。**

1. 画面に OSD が表示されていない場合は、ホット キー (デフォルト: Scroll Lock) をすばやく 2 回押して、OSD を起動します。
2. F5 を押します。[Administration Menu (管理メニュー)] が表示されます。
3. サブメニューの 1 番目にある [System Configuration (システム設定)] を選択します。サブメニューを選択するには、1 を押すか、↓ または ↑ を押して、サブメニューをハイライトし、Enter を押します。
4. Tab または Shift+Tab を押して、[Green Mode (グリーン モード)] フィールドをハイライトし、Enter を押します。ハイライトされた色が緑に変わります
5. 矢印キーのいずれかを押してオプション、[On (オン)] を選択し、Enter を押します。ハイライトの色が黄色に変わります。
6. 必要に応じて時間設定を変更します。
 - a. Tab または → を押して、タイミング フィールドを右に選択し、Enter を押します。ハイライトされた色が緑に変わります
 - b. 矢印キーを押して数字を 1 つずつ調整するか、2 桁の数字を入力します。続いて、Enter を押します。ハイライトの色が黄色に変わります。
7. S を押して変更を保存するか、Esc を押して現在のメニューまたはサブメニューを閉じます。
 - Esc を押すと、メッセージ バーに「Save the changes: [Y/N/ESC] (変更を保存しますか : [Y/N/ESC])」というメッセージが表示されます。変更を保存するには Y を、変更を中止するには N を、現在のメニューまたはサブメニューに戻るには Esc を押します。

注 : モニタがパワー セーブ モードになっている場合は、キーを押すかマウスを移動してモニタを起動します。

▶ **グリーン モードをオフにするには、以下の手順に従います。**

1. 上記の手順 1 ~ 4 に従って、[Green Mode (グリーン モード)] フィールドを選択します。

2. 矢印キーのいずれかを押し、[Off (オフ)] を選択し、Enter を押します。ハイライトの色が黄色に変わります。
3. S を押し、変更を保存するか、Esc を押し、現在のメニューまたはサブメニューを閉じます。
 - Esc を押し、メッセージ バーに「Save the changes: [Y/N/ESC] (変更を保存しますか : [Y/N/ESC])」というメッセージが表示されます。変更を保存するには Y を、変更を中止するには N を、現在のメニューまたはサブメニューに戻るには Esc を押します。

ログオフ タイムアウト機能のセットアップ

ログオフ タイムアウト機能をオンにして、ログイン ユーザが事前に指定した時間内にキーボードおよびマウスを使用しない場合、MCCAT システムが自動的にユーザをログアウトするように指定できます。

▶ ログオフ タイムアウト機能をオンにし、タイミングを調整するには、以下の手順に従います。

1. 画面に OSD が表示されていない場合は、ホット キー (デフォルト: Scroll Lock) をすばやく 2 回押し、OSD を起動します。
2. F5 を押します。[Administration Menu (管理メニュー)] が表示されます。
3. サブメニューの 1 番目にある [System Configuration (システム設定)] を選択します。サブメニューを選択するには、1 を押すか、↓ または ↑ を押し、サブメニューをハイライトし、Enter を押します。
4. Tab または Shift+Tab を押し、[Logoff Timeout (ログオフ タイムアウト)] フィールドをハイライトし、Enter を押します。ハイライトされた色が緑に変わります。
5. 矢印キーのいずれかを押し、[On (オン)] を選択し、Enter を押します。ハイライトの色が黄色に変わります。
6. 必要に応じて時間設定を変更します。デフォルトは 5 分です。
 - a. Tab または → を押し、タイミング フィールドを右に選択し、Enter を押します。ハイライトされた色が緑に変わります。
 - b. 矢印キーを押し、数字を 1 つずつ調整するか、2 桁の数字を入力します。続いて、Enter を押します。ハイライトの色が黄色に変わります。
7. S を押し、変更を保存するか、Esc を押し、現在のメニューまたはサブメニューを閉じます。
 - Esc を押し、メッセージ バーに「Save the changes: [Y/N/ESC] (変更を保存しますか : [Y/N/ESC])」というメッセージが表示されます。変更を保存するには Y を、変更を中止するには N を、現在のメニューまたはサブメニューに戻るには Esc を押します。

▶ **ログオフ タイムアウト機能をオフにするには、以下の手順に従います。**

1. 上記の手順 1 ~ 4 に従って、[Logoff Timeout (ログオフ タイムアウト)] フィールドを選択します。
2. 矢印キーのいずれかを押し、[Off (オフ)] を選択し、Enter を押します。ハイライトの色が黄色に変わります。
3. S を押し、変更を保存するか、Esc を押し、現在のメニューまたはサブメニューを閉じます。
 - Esc を押し、メッセージ バーに「Save the changes: [Y/N/ESC] (変更を保存しますか : [Y/N/ESC])」というメッセージが表示されます。変更を保存するには Y を、変更を中止するには N を、現在のメニューまたはサブメニューに戻るには Esc を押します。

[Login (ログイン)] ボックスの消去

[Login (ログイン)] ボックスは、デフォルトで画面に常に表示されます。事前に設定された時間内にログインが試行されなければ、[Login (ログイン)] ボックスを自動的に消去するようシステムを設定できます。この機能は「ログイン ブランク」と呼ばれ、アイドル中、モニタの電源を節約するのに役立ちます。

▶ **ログイン ブランク機能をオンにし、タイミングを調整するには、以下の手順に従います。**

1. 画面に OSD が表示されていない場合は、ホット キー (デフォルト: Scroll Lock) をすばやく 2 回押し、OSD を起動します。
2. F5 を押します。[Administration Menu (管理メニュー)] が表示されます。
3. サブメニューの 1 番目にある [System Configuration (システム設定)] を選択します。サブメニューを選択するには、1 を押すか、↓ または ↑ を押し、サブメニューをハイライトし、Enter を押します。
4. Tab または Shift+Tab を押し、[Login Blank (ログイン ブランク)] フィールドをハイライトし、Enter を押します。ハイライトされた色が緑に変わります。
5. 矢印キーのいずれかを押し、[On (オン)] を選択し、Enter を押します。ハイライトの色が黄色に変わります。
6. 必要に応じて時間設定を変更します。
 - a. Tab または → を押し、タイミング フィールドを右に選択し、Enter を押します。ハイライトされた色が緑に変わります。
 - b. 矢印キーを押し、数字を 1 つずつ調整するか、2 桁の数字を入力します。続いて、Enter を押します。ハイライトの色が黄色に変わります。
7. S を押し、変更を保存するか、Esc を押し、現在のメニューまたはサブメニューを閉じます。

- Esc を押すと、メッセージ バーに「Save the changes: [Y/N/ESC] (変更を保存しますか : [Y/N/ESC])」というメッセージが表示されます。変更を保存するには Y を、変更を中止するには N を、現在のメニューまたはサブメニューに戻るには Esc を押します。

注：モニタがパワーセーブモードになっている場合は、キーを押すかマウスを移動してモニタを起動します。

▶ ログイン ブランク機能をオフにするには、以下の手順に従います。

1. 上記の手順 1 ~ 4 に従って、[Login Blank (ログイン ブランク)] フィールドを選択します。
2. 矢印キーのいずれかを押してオプション、[Off (オフ)] を選択し、Enter を押します。ハイライトの色が黄色に変わります。
3. S を押して変更を保存するか、Esc を押して現在のメニューまたはサブメニューを閉じます。
 - Esc を押すと、メッセージ バーに「Save the changes: [Y/N/ESC] (変更を保存しますか : [Y/N/ESC])」というメッセージが表示されます。変更を保存するには Y を、変更を中止するには N を、現在のメニューまたはサブメニューに戻るには Esc を押します。

ユーザ アカウントの管理

製品にはデフォルトで 1 つの管理者アカウントと 7 つのユーザ アカウントが用意されています。つまり、Admin と User01 ~ User07 です。管理者アカウント (Admin) を削除、名前変更することはできませんが、ユーザ アカウントの名前の変更、削除、追加などは可能です。

ユーザ アカウントの名前変更

既存のユーザ アカウントの名前を変更できます。

▶ ユーザ アカウントの名前を変更するには、以下の手順に従います。

1. 画面に OSD が表示されていない場合は、ホット キー (デフォルト: Scroll Lock) をすばやく 2 回押して、OSD を起動します。
2. F5 を押します。[Administration Menu (管理メニュー)] が表示されます。
3. サブメニュー の 2 番目、[User Configuration (ユーザ設定)] を選択します。サブメニューを選択するには、2 を押すか、↓ または ↑ を押して、サブメニューをハイライトし、Enter を押します。[User Configuration (ユーザ設定)] サブメニューが表示されます。

4. **↓** または **↑** を押して、名前を変更するユーザ アカウントをハイライトし、Enter を押します。ハイライトの色が水色に変化します。
5. 新しい名前を 8 文字以内で入力し、Enter を押します。ハイライトの色が黄色に変わります。
6. S を押して変更を保存するか、Esc を押して現在のメニューまたはサブメニューを閉じます。
 - Esc を押すと、メッセージ バーに「Save the changes: [Y/N/ESC] (変更を保存しますか : [Y/N/ESC])」というメッセージが表示されます。変更を保存するには Y を、変更を中止するには N を、現在のメニューまたはサブメニューに戻るには Esc を押します。

ユーザ アカウントの追加

新しいアカウントを作成して、最大で 127 個のユーザ アカウントを設定することができます。

▶ **新しいユーザ アカウントを追加するには、以下の手順に従います。**

1. 画面に OSD が表示されていない場合は、ホット キー (デフォルト: Scroll Lock) をすばやく 2 回押して、OSD を起動します。
2. F5 を押します。[Administration Menu (管理メニュー)] が表示されます。
3. サブメニュー の 2 番目、[User Configuration (ユーザ設定)] を選択します。サブメニューを選択するには、2 を押すか、**↓** または **↑** を押して、サブメニューをハイライトし、Enter を押します。[User Configuration (ユーザ設定)] サブメニューが表示されます。
4. Insert を押します。名前構文 (User<xx>) で新規ユーザ アカウントが作成されます。<xx> は連番で、既存の一番新しいユーザ アカウントの番号の次の番号です。
5. メッセージ バーに「Save the changes Y/N/Esc (変更を保存しますか Y/N/Esc)」というメッセージが表示されます。追加を確認する場合は Y、追加を行わない場合は N または Esc を押します。
6. 手順 4 ~ 5 を繰り返し、さらにユーザ アカウントを追加します。
7. Esc キーを押して、現在のサブメニューを終了します。

デフォルトでは、システムは新しいユーザにパスワードを付与しません。パスワードを割り当てるには、「**パスワードの変更**」『p. 51』を参照してください。ユーザ名を変更するには、「**ユーザ アカウントの名前変更**」『p. 57』を参照してください。

ユーザ アカウントの削除

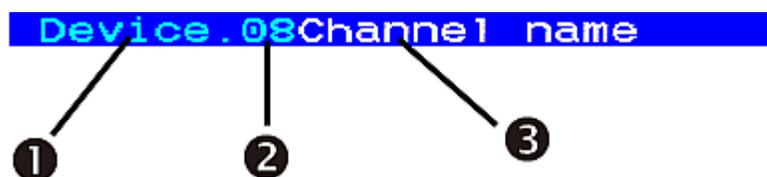
必要に応じて、古いユーザ アカウントを削除できます。

▶ ユーザ アカウントを削除するには、以下の手順に従います。

1. 画面に OSD が表示されていない場合は、ホット キー (デフォルト: Scroll Lock) をすばやく 2 回押して、OSD を起動します。
2. F5 を押します。[Administration Menu (管理メニュー)] が表示されます。
3. サブメニュー の 2 番目、[User Configuration (ユーザ設定)] を選択します。サブメニューを選択するには、2 を押すか、**↓** または **↑** を押して、サブメニューをハイライトし、Enter を押します。[User Configuration (ユーザ設定)] サブメニューが表示されます。
4. **↓** または **↑** を押して、削除するユーザ アカウントをハイライトし、Delete を押します。
5. メッセージ バーに「Delete this user [Y/N/ESC] (このユーザを削除しますか [Y/N/ESC])」というメッセージが表示されます。削除を確認する場合は Y、削除を行わない場合は N または Esc を押します。
6. 手順 4 ~ 5 を繰り返し、さらにユーザ アカウントを削除します。
7. Esc キーを押して、サブメニューを終了します。

チャンネル ID の表示機能のセットアップ

コンピュータまたは任意の非 KVM デバイスが接続されているチャンネルにアクセスすると、デバイス名、チャンネル番号、名前で構成されるテキストの行が画面に数秒間表示されます。この行はアクセスしたチャンネルの「ID」です。システムでチャンネル ID を表示するかどうか、表示する場合の表示時間、画面上で ID を表示する場所を指定することができます。



①	現在の MCCAT スイッチの名前
②	チャンネル番号
③	白い部分のテキストがチャンネル名です。 アクセスされているチャンネルにチャンネル名が割り当てられていない場合は、ここに何も表示されません。

ID の表示機能のセットアップ

▶ ID の表示機能をオンにして、表示時間を調整するには、以下の手順に従います。

1. 画面に OSD が表示されていない場合は、ホット キー (デフォルト: Scroll Lock) をすばやく 2 回押して、OSD を起動します。
2. F5 を押します。[Administration Menu (管理メニュー)] が表示されます。
3. サブメニューの 1 番目にある [System Configuration (システム設定)] を選択します。サブメニューを選択するには、1 を押すか、↓ または ↑ を押して、サブメニューをハイライトし、Enter を押します。
4. Tab または Shift+Tab を押して、[ID Display (ID 表示)] フィールドをハイライトし、Enter を押します。ハイライトされた色が緑に変わります
5. 矢印キーのいずれかを押してオプション、[On (オン)] を選択し、Enter を押します。ハイライトの色が黄色に変わります。
6. 必要に応じて ID Display (ID 表示) 時間を変更します。
 - a. Tab または → を押して、タイミング フィールドを右に選択し、Enter を押します。ハイライトされた色が緑に変わります
 - b. 矢印キーを押して数字を 1 つずつ調整するか、2 桁の数字を入力します。続いて、Enter を押します。ハイライトの色が黄色に変わります。
 - ID を常に画面に表示するには、[- -] (ダッシュ) を選択します。
7. S を押して変更を保存するか、Esc を押して現在のメニューまたはサブメニューを閉じます。
 - Esc を押すと、メッセージ バーに「Save the changes: [Y/N/ESC] (変更を保存しますか : [Y/N/ESC])」というメッセージが表示されます。変更を保存するには Y を、変更を中止するには N を、現在のメニューまたはサブメニューに戻るには Esc を押します。

▶ ID 表示機能をオフにするには、以下の手順に従います。

1. 上記の手順 1 ~ 4 に従って、[ID Display (ID 表示)] フィールドを選択します。
2. 矢印キーのいずれかを押してオプション、[Off (オフ)] を選択し、Enter を押します。ハイライトの色が黄色に変わります。
3. S を押して変更を保存するか、Esc を押して現在のメニューまたはサブメニューを閉じます。

- Esc を押すと、メッセージ バーに「Save the changes: [Y/N/ESC] (変更を保存しますか : [Y/N/ESC])」というメッセージが表示されます。変更を保存するには Y を、変更を中止するには N を、現在のメニューまたはサブメニューに戻るには Esc を押します。

ID 表示位置の調整

▶ チャンネルの ID 表示位置を調整するには、以下の手順に従います。

1. 画面に OSD が表示されていない場合は、ホット キー (デフォルト: Scroll Lock) をすばやく 2 回押して、OSD を起動します。
2. F5 を押します。[Administration Menu (管理メニュー)] が表示されます。
3. サブメニューの 1 番目にある [System Configuration (システム設定)] を選択します。サブメニューを選択するには、1 を押すか、**↓** または **↑** を押して、サブメニューをハイライトし、Enter を押します。
4. Tab または Shift+Tab を押して、[Display Position (表示位置)] フィールドで [ID] 項目をハイライトし、Enter を押します。
5. 画面にサンプルの ID バーが表示されます。

-Move Enter-Exit

矢印キーを押して、必要な位置までバーを移動します。

6. Enter を押して新しい位置を確認します。
7. S を押して変更を保存するか、Esc を押して現在のメニューまたはサブメニューを閉じます。
 - Esc を押すと、メッセージ バーに「Save the changes: [Y/N/ESC] (変更を保存しますか : [Y/N/ESC])」というメッセージが表示されます。変更を保存するには Y を、変更を中止するには N を、現在のメニューまたはサブメニューに戻るには Esc を押します。

OSD メニューの位置の調整

画面上の必要な位置に、OSD メニューを移動できます。

▶ OSD メニューの位置を調整するには、以下の手順に従います。

1. 画面に OSD が表示されていない場合は、ホット キー (デフォルト: Scroll Lock) をすばやく 2 回押して、OSD を起動します。
2. F5 を押します。[Administration Menu (管理メニュー)] が表示されます。
3. サブメニューの 1 番目にある [System Configuration (システム設定)] を選択します。サブメニューを選択するには、1 を押すか、**↓** または **↑** を押して、サブメニューをハイライトし、Enter を押します。

4. Tab または Shift+Tab を押して、[Display Position (表示位置)] フィールドで [Menu (メニュー)] 項目をハイライトし、Enter を押します。ハイライトされた色が緑に変わります
5. 矢印キーを押して、必要な位置まで OSD メニューを移動します。
6. Enter を押して新しい位置を確認します。ハイライトの色が黄色に変わります。
7. S を押して変更を保存するか、Esc を押して現在のメニューまたはサブメニューを閉じます。
 - Esc を押すと、メッセージ バーに「Save the changes: [Y/N/ESC] (変更を保存しますか : [Y/N/ESC])」というメッセージが表示されます。変更を保存するには Y を、変更を中止するには N を、現在のメニューまたはサブメニューに戻るには Esc を押します。

システム設定のリセット

現在のシステム設定をクリアして、すべての設定を工場出荷時のデフォルトにすることができます。つまり以下の設定です。

- Administration Menu (管理メニュー) のすべての設定 :
 - System Configuration (システム設定)
 - User Configuration (ユーザ設定)
 - Channel Configuration (チャンネル設定)
- MCCAT スイッチのカスケード設定 :
 - リセットすると、デバイスはベース スイッチ (1 段目のデバイス) の設定に戻ります。

デバイスをリセットする場合は、管理者としてログインする必要はありません。

▶ **システム設定をリセットするには、以下の手順に従います。**

1. MCCAT スイッチの電源をオフにします。
2. 前面パネルのチャンネル番号 3 のボタンを押したまま、同時に MCCAT スイッチの電源をオンにします。
3. ビープ音が鳴るまでチャンネル番号 3 のボタンを押し続けます。

2 段カスケード システムでは、ベース スイッチのみリセットされます。不要な場合は 2 段目のデバイスをリセットしないでください。2 段目のデバイスをリセットする場合は、必ず **デバイスの再設定** 『p. 64の"手順 (A):MCCAT スイッチを 2 段目のデバイスとして設定する"参照』を行ってください。

複数の MCCAT スイッチに接続して 2 段カスケード システムを構成し、使用可能なチャンネル数を増やすことができます。システム内に異種モデルを混在できません。システムを 16 チャンネル ポート モデルだけで構成する場合は、接続するコンピュータの台数を最大 256 台まで増やすことができます。

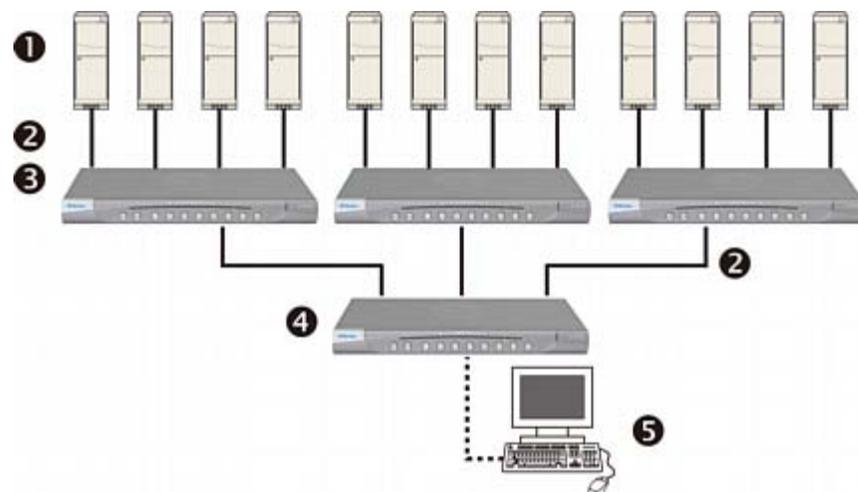
この章の内容

概要	63
2 段カスケード システムの設定	64
2 段目のチャンネルのセットアップ	69
2 段目のチャンネルへのアクセス	70
ベース スイッチの OSD に戻る	71

概要

1 台以上の MCCAT スイッチを MCCAT スイッチに接続すると、"2 段カスケード" システムが構成されます。同じ MCCAT スイッチに接続された MCCAT スイッチはすべて 2 段目のデバイスになり、これらの 2 段目のデバイスを接続する MCCAT スイッチは 1 段目の "ベース スイッチ" になります。ベース スイッチのチャンネル ポートも含め、システム内で使用可能なあらゆるチャンネル ポートにコンピュータを接続できます。

注：2 段カスケード システムでは、2 段目の MCCAT スイッチの前面パネル ボタンは、すべて自動的に無効になります。



① コンピュータ

②	Cat5 UTP ケーブル
③	2 段目の MCCAT スイッチ
④	MCCAT ベース スイッチ (1 段目)
⑤	入出力デバイス (キーボード、マウス、モニタ)

2 段カスケード システムの設定

2 段カスケード システムを設定するには、基本的には次の 5 つの手順があります。

- 手順 (A):MCCAT スイッチを 2 段目のデバイスとして設定する
- 手順 (B):2 段目の MCCAT スイッチをベース スイッチに接続する
- 手順 (C):入出力デバイスをベース スイッチに接続する
- 手順 (D): OSD で 2 段目のデバイスの種類を指定する
- 手順 (E): コンピュータを MCCAT システムに接続する

手順 (A):MCCAT スイッチを 2 段目のデバイスとして設定する

各 MCCAT スイッチは、デフォルトでベース スイッチとして設定されています。2 段カスケード システムを設定するには、設定しようとしている MCCAT スイッチのデフォルト プログラムを 2 段目のデバイスとして設定するように変更する必要があります。

▶ MCCAT スイッチを 2 段目のデバイスとして設定するには、以下の手順に従います。

1. MCCAT スイッチの電源をオフにします。
2. 前面パネルのチャンネル番号 2 のボタンを押したまま、同時に MCCAT スイッチの電源をオンにします。
3. ビープ音が鳴るまでチャンネル番号 2 のボタンを押し続けます。
 - TIER LED が常時点灯し、MCCAT スイッチが 2 段目のデバイスとして設定されたことを示します。
4. 1 ~ 3 の手順を繰り返し、その他の MCCAT スイッチのプログラムを変更します。

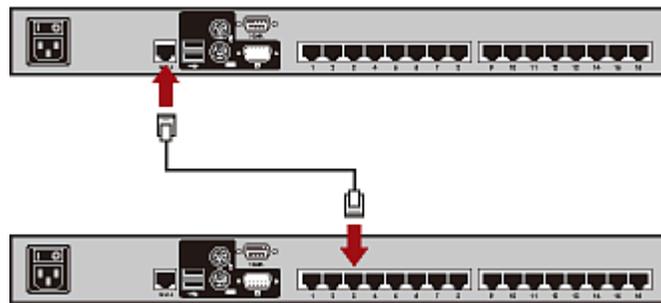
注 : 2 段目のデバイスをベース スイッチに設定し直すには、上記と同じ手順で、代わりにチャンネル番号 1 のボタンを押します。TIER LED の灯りが消えれば、デバイスはベース スイッチとして設定し直されたこととなります。

手順 (B):2 段目の MCCAT スイッチをベース スイッチに接続する

2 段目のデバイスとして設定されている MCCAT スイッチを MCCAT ベース スイッチに接続します。システムで異なる MCCAT モデルを混在させることができます。たとえば、MCCAT28 スイッチを MCCAT216 ベース スイッチに接続できます。

▶ 2 段カスケード式の KVM スイッチを構成するには、以下の手順に従います。

1. すべての MCCAT スイッチとベース スイッチの電源をオフにします。
2. Cat5 UTP ケーブル経由で 2 段目の MCCAT スイッチをベース スイッチに接続します。
 - a. Cat5 UTP ケーブルの一方の端を 2 段目の MCCAT スイッチの **User 2** ポートに接続します。
 - b. Cat5 UTP ケーブルのもう一方の端をベース スイッチのチャンネル ポートの一端に接続します。



ヒント : "1 ユーザ用" MCCAT スイッチをベース スイッチに接続することもできます。『ユーザ ガイド』の「MCCAT18/116 スイッチをベース スイッチに接続する方法」『p. 90』を参照してください。

3. 上記の手順を繰り返し、その他の 2 段目の MCCAT スイッチをベース スイッチに接続します。
4. すべての 2 段目のデバイスの電源をオンにします。
5. 2 段目のデバイスのピープ音が聞こえたら、ベース スイッチの電源をオンにします。

重要 : ベース スイッチの電源を入れる前に必ず 2 段目のデバイスの電源をオンにして、ベース スイッチが 2 段目のデバイスから最新のチャンネル データをダウンロードできるようにしてください。

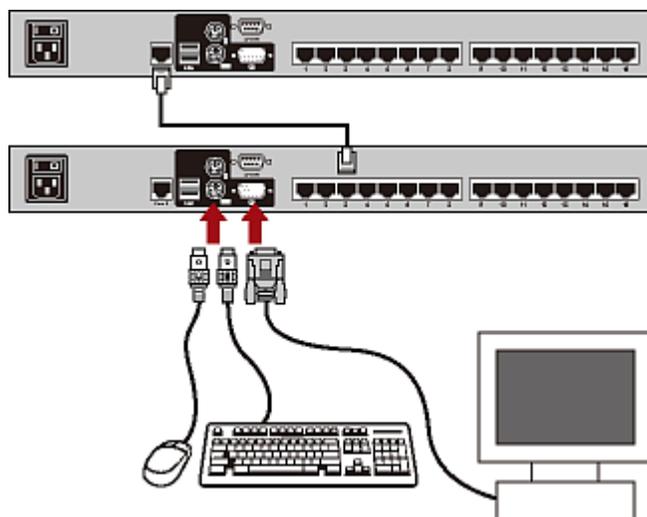
手順 (C):入出カデバイスをベース スイッチに接続する

入出カデバイス (キーボード、マウス、モニタ) をベース スイッチに接続する方法には、次の 2 種類があります。

- ベース スイッチに直接接続する。
- ベース スイッチに接続されているユーザ ステーションに接続する。

▶ 入出カデバイスを直接ベース スイッチに接続するには、以下の手順に従います。

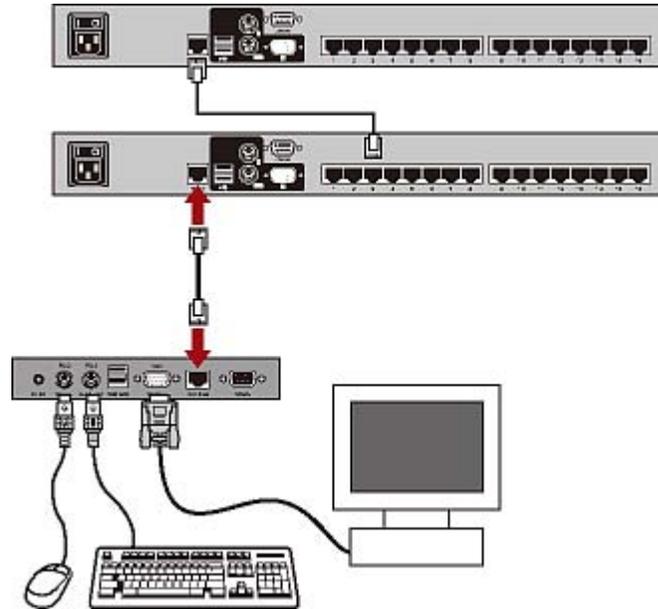
PS/2 または USB キーボード、マウス、VGA モニタを、ベース スイッチに接続します。詳細については、「**接続の確立**」[p. 16]の手順 6 を参照してください。



▶ ユーザ ステーション経由で入出カデバイスをベース スイッチに接続するには、以下の手順に従います。

1. PS/2 または USB キーボード、マウス、VGA モニタを、MCCAT ユーザ ステーションに接続します。

2. MCCAT ユーザ ステーションをベース スイッチに接続します。詳細については、ユーザ ステーションに付属の『クイック セットアップ ガイド』または、『ユーザ ガイド』の「ユーザ ステーションの接続 (オプション)」『p. 20』を参照してください。



注 :入出力デバイスを "2 段目のデバイス" に直接接続することもできます。2 段目のデバイスに直接接続されている入出力デバイス进行操作する "ローカル" ユーザは、操作する 2 段目のデバイスのチャンネルにのみアクセスできます。

手順 (D): OSD で 2 段目のデバイスの種類を指定する

MCCAT のベース スイッチは、チャンネル ポートに接続されているデバイスのタイプを検出できません。このため、[Channel Configuration (チャンネル設定)] サブメニューで正しいタイプを指定する必要があります。指定しないと、2 段目のデバイスのチャンネルへのアクセスで問題が発生します。

以下の表は、サポートされるデバイスの一覧です。

OSD オプション	デバイス タイプ
CPU	コンピュータまたはルータなどの非 KVM スイッチ デバイス
CAT18	MCCAT18 スイッチ
CAT116	MCCAT16 スイッチ
CAT28	MCCAT28 スイッチ
CAT216	MCCAT216 スイッチ

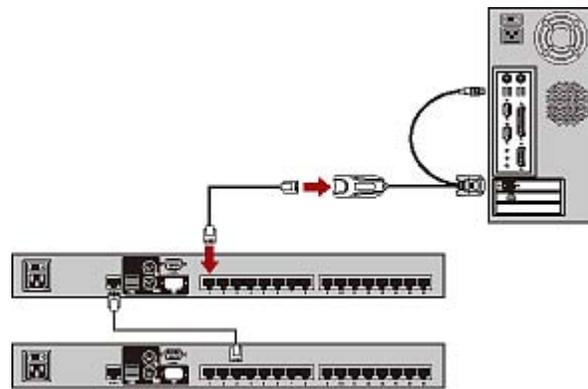
▶ **デバイス タイプを指定するには、以下の手順に従います。**

1. 画面に OSD が表示されていない場合は、ホット キー (デフォルト: Scroll Lock) をすばやく 2 回押して、OSD を起動します。
2. F5 を押します。[Administration Menu (管理メニュー)] が表示されます。
3. サブメニューの 3 番目にある [Channel Configuration (チャンネル設定)] を選択します。サブメニューを選択するには、3 を押すか、**↓** を押してメニュー項目をハイライトし、Enter を押します。[Channel Configuration (チャンネル設定)] サブメニューが表示されます。
4. **↓** または **↑** を押して、変更するデバイス タイプのチャンネルをハイライトします。
5. Tab または **→** を押して、[Device (デバイス)] 列のフィールドを選択し、Enter を押します。ハイライトされた色が緑に変わります
6. 使用できるオプションを切り替えるには任意の矢印キーを押し、Enter を押して選択内容を確認します。ハイライトの色が黄色に変わります。
7. 2 段目のデバイスすべてに正しいデバイス タイプを指定できるまで、4 ~ 6 の手順を繰り返します。
8. S を押して変更を保存するか、Esc を押して現在のメニューまたはサブメニューを閉じます。

- Esc を押すと、メッセージ バーに「Save the changes: [Y/N/ESC] (変更を保存しますか : [Y/N/ESC])」というメッセージが表示されます。変更を保存するには Y を、変更を中止するには N を、現在のメニューまたはサブメニューに戻るには Esc を押します。

手順 (E): コンピュータを MCCAT システムに接続する

ベース スイッチや 2 段目のデバイスのチャンネル ポートなど、システム内の KVM スイッチの使用可能なチャンネル ポートにコンピュータを接続できます。コンピュータに接続する手順については、「**接続の確立**」[p. 16]の手順 1 ~ 4 を参照してください。



2 段目のチャンネルのセットアップ

MCCAT 2 段カスケード システムのチャンネルに名前を付けたり名前を変更する場合や、スキャン レートを変更する場合には、2 段目のデバイスの [Channel Configuration (チャンネル設定)] サブメニューをトリガする必要があります。

▶ 2 段目のデバイスの [Channel Configuration (チャンネル設定)] サブメニューにアクセスするには、以下の手順に従います。

1. 画面に OSD が表示されていない場合は、ホット キー (デフォルト: Scroll Lock) をすばやく 2 回押して、OSD を起動します。
2. F5 を押します。[Administration Menu (管理メニュー)] が表示されます。
3. サブメニューの 3 番目にある [Channel Configuration (チャンネル設定)] を選択します。サブメニューを選択するには、3 を押すか、↓ を押してメニュー項目をハイライトし、Enter を押します。[Channel Configuration (チャンネル設定)] サブメニューが表示されます。
4. (オプション) 現在のページにチャンネルが見つからない場合は、Page Down または Page Up を押して、前後のページに移動してください。

5. **↓** または **↑** を押して 2 段目の MCCAT スイッチが接続されているチャンネルをハイライトし、G を押します。選択した 2 段目のデバイスの [Channel Configuration (チャンネル設定)] サブメニューが表示されます。
6. これで 2 段目のデバイスのチャンネル設定を変更できるようになりました。
 - チャンネル名を変更するには、「**チャンネル名の割り当てと変更**」『p. 48』を参照してください。
 - スキャン レートを変更するには、「**スキャン レートの変更**」『p. 49』を参照してください。
7. S を押して変更を保存するか、Esc を押して現在のメニューまたはサブメニューを閉じます。
 - S を押すと、Esc を押してベース スイッチの [Channel Configuration (チャンネル設定)] サブメニューに戻ることができます。
 - Esc を押すと、メッセージ バーに「Save the changes: [Y/N/ESC] (変更を保存しますか : [Y/N/ESC])」というメッセージが表示されます。変更を保存するには Y を、変更を中止するには N を、現在のメニューまたはサブメニューに戻るには Esc を押します。

注：ベース スイッチで 2 段目のチャンネルに名前を指定した場合、チャンネル名は 2 段目の各デバイスではなく、ベース スイッチのデータベースに保存されます。2 段目のデバイスに直接接続された入出力デバイス进行操作して 2 段目のデバイスにアクセスした場合、チャンネル名は表示されません。

2 段目のチャンネルへのアクセス

2 段カスケード システムでは、2 段目のデバイスの前面パネルのボタンが自動的に無効になるため、2 段目のチャンネルにアクセスする唯一の方法は OSD です。2 段カスケード システムが正しく設定されている場合、ベース スイッチの OSD に 2 段目のチャンネルが表示されます。

▶ 2 段目のチャンネルにアクセスするには、以下の手順に従います。

1. 画面に OSD が表示されていない場合は、ホット キー (デフォルト: Scroll Lock) をすばやく 2 回押して、OSD を起動します。
2. **↓** または **↑** を押して、2 段目のデバイスが接続されているチャンネルをハイライトします。2 段目のデバイスに接続されたチャンネルには、[Scn (スキャン)] 列にダッシュ (--) が表示されます。

ヒント：チャンネルの [No (番号)] 列に表示された該当番号を押すと、そのチャンネルをすばやくハイライトできます。

3. Enter を押します。[Selection Menu (選択メニュー)] には選択した 2 段目のデバイスのチャンネルが表示されます。

4. (オプション) 現在のページにチャンネルが見つからない場合は、Page Down または Page Up を押して、前後のページに移動してください。
5. ↓ または ↑ を押して、必要なチャンネルをハイライトします。
6. Enter を押します。

アクセスしたコンピュータのビデオが画面に表示され、キーボードとマウスでコンピュータを制御できます。

2 段カスケード システムの制限

2 段カスケード システムにはいくつかの制限があります。

- ベース スイッチと 2 段目の各デバイス間のパスは 1 つのみ (Cat5 UTP ケーブル) です。ベース スイッチのユーザが 2 段目のデバイスのチャンネルにアクセスした場合、ベース スイッチの他のユーザが 2 段目の同じデバイスのチャンネルにアクセスするための他のパスはありません。
- PC 共有モードは、ベース スイッチで選択された操作モードに関係なく、2 段目のデバイスに自動的に適用されます。ベース スイッチのユーザは、2 段目のデバイスに直接接続された入出力デバイス进行操作している "ローカル" ユーザと 2 段目のチャンネルを共有できます。
- 2 段目のデバイスに直接接続されている入出力デバイス进行操作する "ローカル" ユーザは、操作する 2 段目のデバイスのチャンネルにのみアクセスできます。

ベース スイッチの OSD に戻る

2 段目のコンピュータでのタスクを終了したら、MCCAT ベース スイッチの [Selection Menu (選択メニュー)] に戻り、ベース スイッチに接続されているコンピュータで作業を行ったり、2 段目の別のデバイスにアクセスしたりできます。

▶ **ベース スイッチの [Selection Menu (選択メニュー)] に戻るには、以下の手順に従います。**

1. 画面に OSD が表示されていない場合は、ホット キー (デフォルト: Scroll Lock) をすばやく 2 回押して、OSD を起動します。
2. 現在の OSD メニューが [Selection Menu (選択メニュー)] ではない場合は、F2 を押します。
3. Esc を押します。ベース スイッチ名が左上に表示され、[Selection Menu (選択メニュー)] にベース スイッチのチャンネルが一覧表示されます。

7

キーボード レイアウト設定 (Sun USB MCUTP ケーブルの場合)

各国での使用に合わせて、各種言語バージョンのキーボードが用意されています。たとえば、フランス語キーボードのレイアウトは英語 (米国) キーボードのレイアウトと異なります。Sun USB MCUTP ケーブルでは、英語 (米国) キーボード (出荷時のデフォルト) を使用していない場合に、キーボードのタイプに合わせてキーボードのレイアウト設定を変更することができます。

注：キーボード レイアウト変更機能は、USB または PS/2 MCIM および MCUTP ケーブルでは使用できません。

この章の内容

キーボード レイアウト設定の変更	72
キーボード レイアウトのコード	74

キーボード レイアウト設定の変更

Sun USB MCUTP ケーブルを Sun サーバに接続し、キーボードが英語 (米国) (コード 33) でない場合は、キーボード設定モードを入力してキーボード レイアウトを変更する必要があります。

▶ **キーボード レイアウト設定を変更するには、以下の手順に従います。**

1. 目的のサーバのチャンネルを [Selection Menu (選択メニュー)] でハイライトし、Enter を押します。
2. サーバ上でテキスト エディタを起動します。

3. Left Ctrl と NumLock を押して、設定モードを入力します。以下のようなメッセージがテキスト エディタに表示されます。

```

Cable cim susb 0A2
Bootloader version is 01
----
keyboard layouts
33 english us
32 english uk
08 french
09 german
26 swedish
19 norwegian
15 japanese
25 spanish
14 italian
16 korean
----
current options
keyboard layout is 33

```

A	よく使用されるキーボード レイアウト コード
B	現在のキーボード レイアウトは英語 (米国) (コード 33)

4. 適切なキーボード レイアウト コードを入力します。入力したコードが最後の行に表示されます。たとえば、日本語キーボードのコード 15 を入力すると、キーボード レイアウトが 15 であることが最後の行に示されます。

```

Cable cim susb 0A2
Bootloader version is 01
----
keyboard layouts
33 english us
32 english uk
08 french
09 german
26 swedish
19 norwegian
15 japanese
25 spanish
14 italian
16 korean
----
current options
keyboard layout is 3315
keyboard layout is 15

```

7: キーボード レイアウト設定 (Sun USB MCUTP ケーブルの場合)

C 新しく変更されたキーボード コード

5. Esc を押して設定モードを終了します。
6. サーバからログアウトします。
 - テキスト ファイルを保存するかどうかを確認するメッセージが表示された場合は、無視して構いません。
7. サーバにログインします。

重要： キーボード設定の変更を反映させるために、サーバからログアウトしてログインし直す必要があります。

キーボード レイアウトのコード

キーボード設定モードでは、よく使用されるキーボード レイアウトのコードのみ画面に表示されます。それ以外のレイアウトのコードについては、表を参照してください。

言語	レイアウト コード	言語	レイアウト コード
アラビア語	01	オランダ語	18
ベルギー語	02	ノルウェー語	19
カナダ (バイリンガル)	03	ペルシャ語	20
カナダ (フランス語)	04	ポーランド語	21
チェコ語	05	ポルトガル語	22
デンマーク語	06	ロシア語	23
フィンランド語	07	スロバキア語	24
フランス語	08	スペイン語	25
ドイツ語	09	スウェーデン語	26
ギリシャ語	10	スイス (フランス語)	27
ヘブライ語	11	スイス (ドイツ語)	28
ハンガリー語	12	スイス語	29
国際 (ISO)	13	台湾語	30
イタリア語	14	トルコ語	31
日本語	15	英語	32
韓国語	16	米語 (デフォルト)	33

7: キーボード レイアウト設定 (Sun USB MCUTP ケーブルの場合)

言語	レイアウト コード	言語	レイアウト コード
ラテン アメリカ	17	ユーゴスラビア語	34

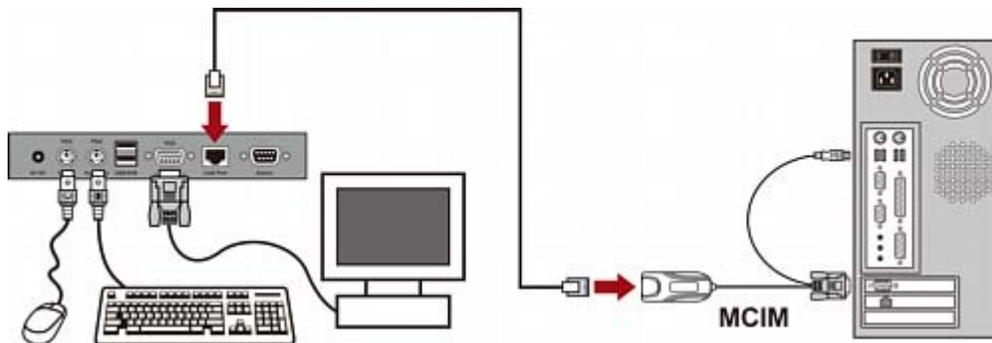
8

ユーザ ステーションのダイレクト モード

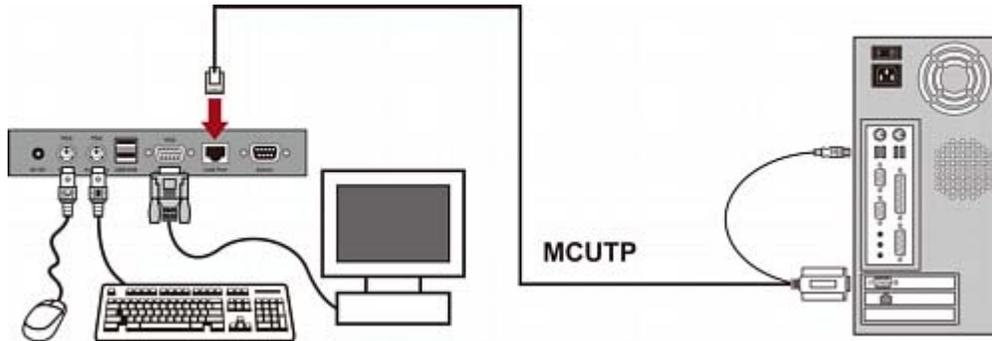
緊急用カートの操作など、緊急な作業が発生する場合があります。このような場合、MCCAT ユーザ ステーションからコンピュータに直接接続する必要があります。これをダイレクト モードといいます。

▶ **MCCAT ユーザ ステーションからコンピュータに接続するには、以下の手順に従います。**

1. MCIM または MCUTP ケーブルが操作するコンピュータに接続されていることを確認します。MCIM または MCUTP ケーブルの接続の詳細については、「**接続の確立**」『p. 16』を参照してください。
2. **MCCAT ユーザ ステーション** 『p. 20の"ユーザ ステーションの接続 (オプション)"参照 』に入出力デバイスが接続されていることを確認します。
3. 100 フィート (30.48 メータ) 以下のケーブルで、コンピュータを MCCAT ユーザ ステーションに接続します。100 フィートより長いケーブルでは、ビデオの品質が劣化する場合があります。
 - MCIM を使用する場合：
 - a. Cat5 UTP ケーブルの一端をコンピュータに接続されている MCIM の RJ-45 ポートに接続します。
 - b. ケーブルのもう一方を、ユーザ ステーションの Cat5 ポートに接続します。



- MCUTP ケーブルを使用する場合：
 - ケーブルの RJ-45 コネクタを、ユーザ ステーションの Cat5 ポートに接続します。



注：ビデオに何らかの異常が発生した場合は、MCCAT ユーザ ステーションの電源アダプタを抜いて、つなぎ直すことで電源を入れ直し、問題を解決してください。

ラリタンの Web サイト『<http://www.raritan.com>参照』で新しい MCCAT ファームウェアがリリースされるたびに MCCAT のファームウェアをアップグレードすると、最新の拡張機能や新機能を利用できます。MCCAT スイッチとユーザ ステーションのアップグレード手順は同じですが、必要なファームウェアが異なります。アップグレードプロセスには、次の 3 つの手順があります。

- 手順 (A):最新のファームウェアとアップグレード ユーティリティをダウンロードする
- 手順 (B):アップグレード ユーティリティを実行するコンピュータに MCCAT デバイスを接続する
- 手順 (C):アップグレード ユーティリティを起動する
- システムが 2 つ以上の MCCAT スイッチで構成されている場合は、それぞれをアップグレードする必要があります。

システムが複数の MCCAT スイッチで構成されている場合は、それぞれをアップグレードする必要があります。

この章の内容

手順 (A):最新のファームウェアとアップグレード ユーティリティをダウンロードする....	78
手順 (B): アップグレード ユーティリティを実行するコンピュータに目的のデバイスを接続する	79
手順 (C):アップグレード ユーティリティを起動する	81

手順 (A):最新のファームウェアとアップグレード ユーティリティをダウンロードする

1. ブラウザから **ラリタンの Web サイト**『<http://www.raritan.com>参照』にアクセスします。
2. **[Support (サポート)] > [Firmware and Documentation (ファームウェアとドキュメンテーション)]** をクリックします。
3. 左側のペインで製品名を検索してクリックします。
4. 右側のペインで適切なモデルおよびバージョンをクリックします。
5. **[Firmware Upgrade (ファームウェアのアップグレード)]** をクリックします。ファームウェア ファイルのリストを示す Web ページが開きます。
 - ファームウェアをラリタンの Web サイトから初めてダウンロードする場合は、**[Firmware Request (ファームウェアのリクエスト)]** フォームが開きます。フォームを記入して **[Submit (送信)]** をクリックします。
6. 右側のペインにハイパーリンクまたはファイルが表示されたら、適切なものをクリックします。
7. **[Save (保存)]** をクリックして、コンピュータにファイルを保存します。

8. ファイルを保存する場所を指定し、[Save (保存)] をクリックします。ダウンロードが完了するまで待ちます。
9. 圧縮ファイルの場合はファイルを解凍します。
10. (オプション) ダウンロードされたファイルに「リリース ノート」が含まれていない場合は、[Firmware and Documentation (ファームウェアとドキュメント)] Web ページでリリース ノートをダブルクリックして開くか、ダウンロードを実行します。
11. 必要な情報については、リリース ノートを参照してください。

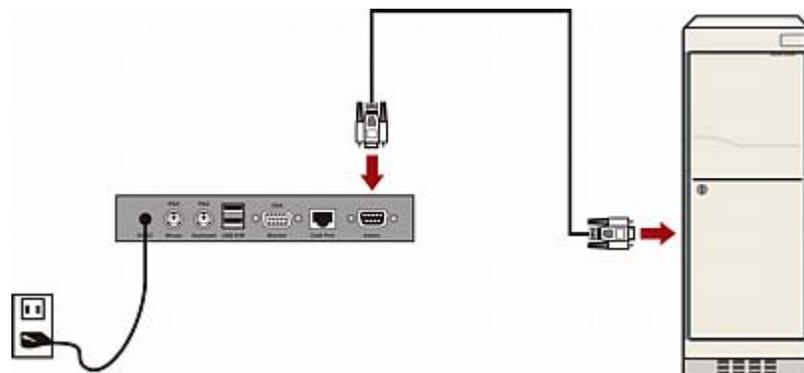
手順 (B): アップグレード ユーティリティを実行するコンピュータに目的のデバイスを接続する

DB9 オスメス シリアル (RS-232) ケーブルを 1 本準備し、このケーブルを使用して、アップグレード ユーティリティをインストールするコンピュータに MCCAT スイッチまたは MCCAT ユーザ ステーションを接続します。

注：ケーブルがない場合は、ラリタンのテクニカル サポートにサポートをお問い合わせください。

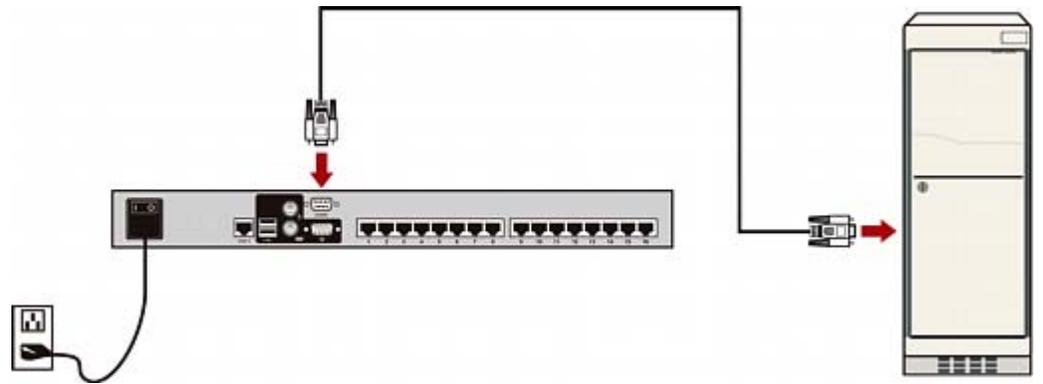
1. シリアル ケーブルの一端をコンピュータのシリアル ポートの 1 つに接続します。
2. もう一端を MCCAT スイッチまたは MCCAT ユーザ ステーションの Admin ポートに接続します。

- **MCCAT ユーザ ステーションの接続**



9: ファームウェアのアップグレード

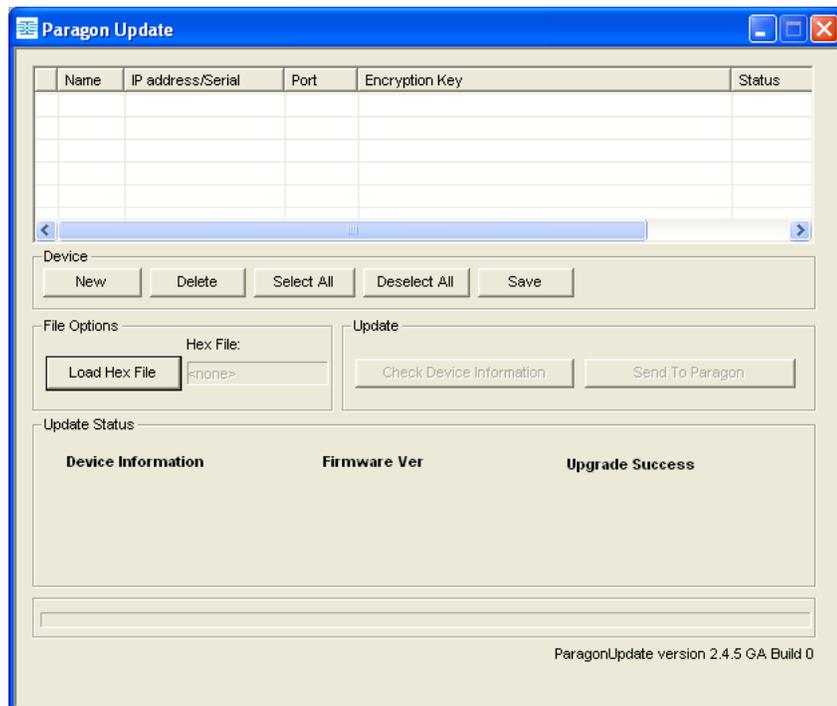
▪ MCCAT スイッチの接続



手順 (C):アップグレード ユーティリティを起動する

MCCAT スイッチおよび MCCAT ユーザ ステーションのアップグレード ユーティリティは、ラリタンの Paragon デバイスのアップグレード ユーティリティ、つまり ParagonUpdate ユーティリティと同じです。2.4.3 より古い Paragon Update ユーティリティは、MCCAT スイッチおよび MCCAT ユーザ ステーションのアップグレードをサポートしていません。アップグレードを確実に進めるよう、MCCAT ファームウェアと共にダウンロードされる最新のアップグレード ユーティリティを必ず使用してください。

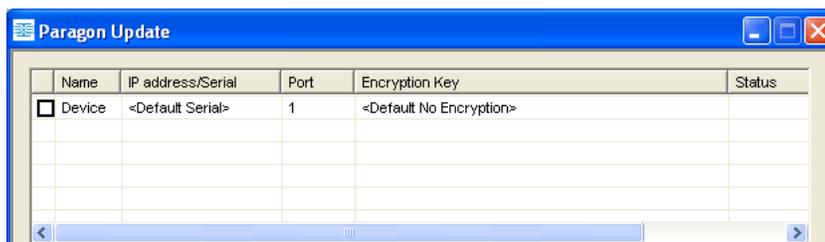
1. アップグレード ユーティリティ (ParagonUpdate_xxx.exe) をダブルクリックします。ここで xxx はバージョン番号を表します。Paragon Update ユーティリティが開きます。



2. アップグレード対象のデバイスがダイアログ ボックスの一覧に表示されている場合は、手順 3 に進みます。表示されていない場合は、次の手順に従って、デバイス情報を指定します。
 - a. [New (新規)] をクリックして、デバイス情報を追加します。
 - b. [Name (名前)] フィールドをクリックし、アップグレードするデバイスの名前を入力します。
 - c. [IP address/Serial (IP アドレス/シリアル)] フィールドで [<Default Serial (デフォルトのシリアル)>] が選択されていることを確認します。

9: ファームウェアのアップグレード

- d. [Port (ポート)] フィールドをクリックし、シリアル ポートの番号を入力します。たとえば、COM 1 でコンピュータに接続するデバイスの場合は、「1」を、COM 2 を使用する場合は「2」を入力します。
- e. [Encryption Key (暗号化キー)] フィールドで、[<Default No Encryption> (<デフォルト : 暗号化なし>)] が選択されていることを確認します。
- f. (オプション) [Save (保存)] をクリックしてデバイス情報を保存します。これにより、次回同じ情報を再入力する必要がなくなります。



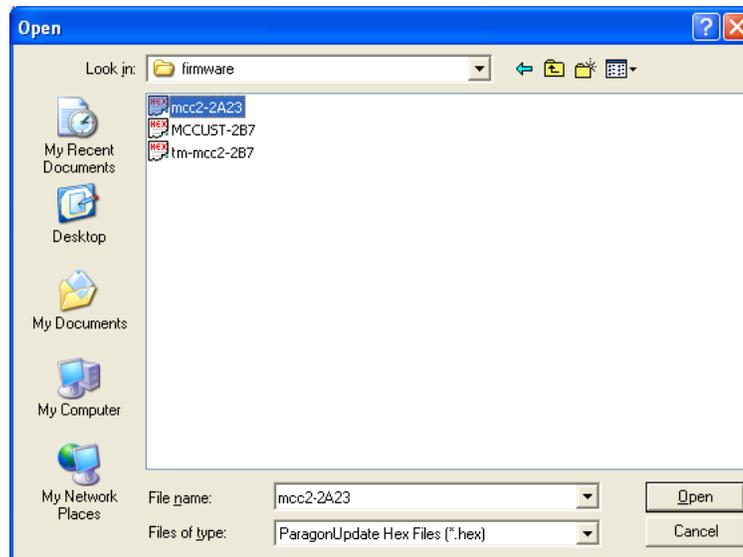
3. アップグレードするデバイスの横にあるチェックボックスを選択します。



- 4. [Load Hex File (16 進ファイルを読み込む)] をクリックします。[Open (開く)] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 5. ファームウェア ファイル (*.hex) が格納されているフォルダに移動し、ファイルを選択して [開く] をクリックします。ファームウェア ファイルはデバイスごとに異なります。

デバイス	ファイル名構文 (*.hex)	
KVM スイッチ	MCCAT28 または MCCAT216	mcc2-xxx**
	TMCAT1728 または TMCAT17216	tm-mcc2-xxx**
MCCAT ユーザ ステーション		MCCUST-xxx**

**xxx はファームウェアのバージョン番号を表します。

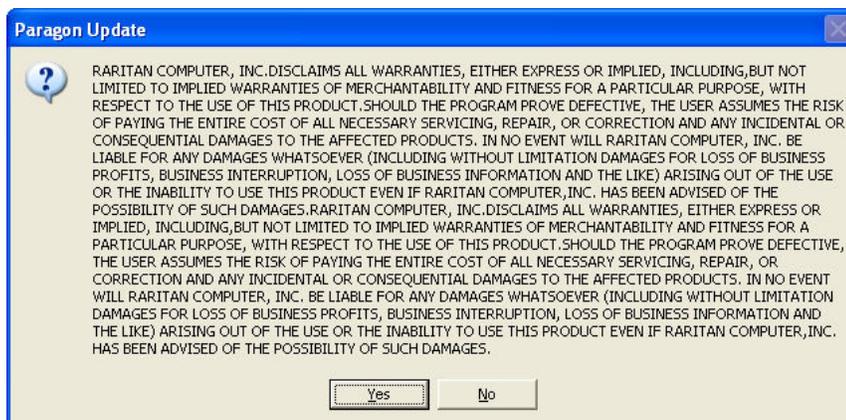


6. (オプション) デバイスの現在のハードウェアとファームウェアのバージョンを表示するには、[Check Device Information (デバイス情報の確認)] をクリックします。
 - a. [Yes (はい)] をクリックします。[Check Device Information (デバイス情報の確認)] ウィンドウが開きます。
 - b. ウィンドウを閉じるには [OK] をクリックします。

注 : MCCAT および TMCAT17 シリーズは同じハードウェア タイプに属しません。[Check Device Information (デバイス情報の確認)] ウィンドウでは、KVM スイッチの接続先 (MCCAT または TMCAT17 シリーズ) にかかわらず、ハードウェアが MCCAT として表示されます。

7. [Raritan MasterConsole (ラリタン MasterConsole)] をクリックしてアップグレードを実行します。

8. このメッセージが表示されたら、[Yes (はい)] をクリックします。



9. ダイアログ ボックスの下部の進行状況インジケータに、アップグレード ステータスが表示されます。アップグレードには数分かかることがあります。



10. アップグレードが正常に終了すると、「Device Update Successful (デバイスのアップデートは正常に完了しました)」というメッセージが表示されます。[OK] をクリックします。



Paragon Update ユーティリティの詳細情報については、ラリタンの [[マニュアル/セットアップガイド](#)]

『<http://www.raritan.com/support/firmware-and-documentation/>参照 』
Web ページから『Paragon Manager ユーザ ガイド』をダウンロードして参照ください。

A

仕様

この章の内容

サイズ.....	85
電源.....	85
動作環境.....	85
サポートされる解像度	86

サイズ

MCCAT28 (8 チャンネル モデル)	1U ラックマウント可能	寸法 : 44 cm (幅) x 18.3 cm (奥行き) x 4.4 cm (高さ)	重量 : 5.40 lb または 2.45 kg
MCCAT216 (16 チャンネル モデル)	1U ラックマウント可能	寸法 : 44 cm (幅) x 18.3 cm (奥行き) x 4.4 cm (高さ)	重量 : 5.42 lb または 2.46 kg
MCCAT-UST		寸法 : 18.3 cm (幅) x 10 cm (奥行き) x 3 cm (高さ)	重量 : 1.19 lb または 0.54 kg

電源

MCCAT28	100V~240V オート センシング、20 ワット
MCCAT216	100V~240V オート センシング、20 ワット
MCCAT-UST	DC 6V

動作環境

操作	0° ~ 40° C
保管	-5° ~ 60° C
相対湿度	5 ~ 90%、結露なし

サポートされる解像度

画面解像度	リフレッシュ レート (HZ)
640x350	70, 85
640x400	85
640x480	60, 67, 72
720x400	70, 85
800x600	56, 60, 70, 72, 75, 85, 100
1024x768	60, 70, 75, 85, 100
1152x864	75
1152x870	75
1280x960	60, 85
1280x1024	60, 75, 85
1600x1200	60

B

ケーブルの長さ制限

ビデオの品質を保つために、MCCAT デバイスとコンピュータ間の Cat5 ケーブルの長さを制限する必要があります。ここでは、MCCAT デバイスでサポートされる最大ケーブル長または最大距離をシナリオ別に示します。

この章の内容

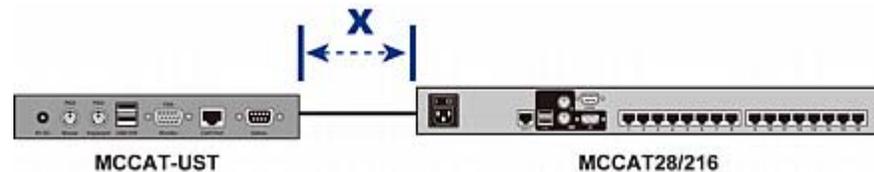
ユーザおよび MCCAT スイッチの最大距離	87
ユーザおよびコンピュータの最大距離	87
ユーザ ステーションのダイレクト モードの最大距離	88

ユーザおよび MCCAT スイッチの最大距離

MCCAT ユーザ ステーションと MCCAT スイッチ間のケーブルの長さまたは距離は、100 フィートを超えてはなりません。

サポートされる長さ

X= 100 フィート (30.48 メータ) まで



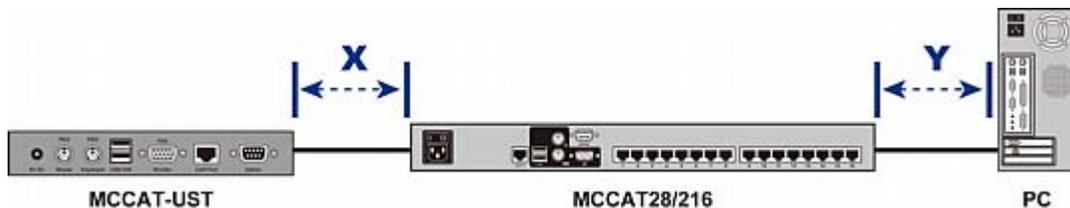
ユーザおよびコンピュータの最大距離

ユーザとコンピュータ間の最大ケーブル長または最大距離は、ビデオ解像度によって変わります。

解像度	サポートされる長さ
1280x1024 以下	X*+Y= 150 フィート (45.72 メータ) まで
1600x1200	X*+Y= 100 フィート (30.48 メータ) まで

B: ケーブルの長さ制限

* X は 100 フィートまで可。「*ユーザおよび MCCAT スイッチの最大距離*」〔p. 87〕を参照してください。

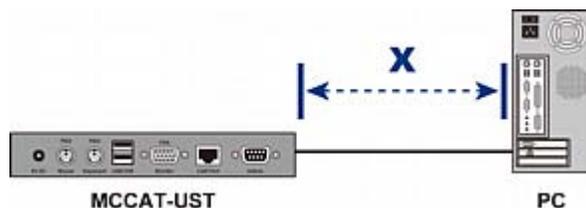


ユーザ ステーションのダイレクト モードの最大距離

MCCAT ユーザ ステーションをコンピュータに直接接続する場合（つまりダイレクトモードの場合）は、ビデオの品質を保つためにケーブルの長さも制限する必要があります。ダイレクトモードの詳細については、「*ユーザ ステーションのダイレクト モード*」〔p. 76〕を参照してください。

サポートされる長さ

X= 100 フィート (30.48 メータ) まで



C

他のラリタン製品との互換性

MCCAT28 スイッチおよび MCCAT216 スイッチは、他のラリタン製デバイスと組み合わせて使用できます。

- MCCAT18 および MCCAT116 などの KVM スイッチ
- ほとんどの Paragon、Dominion、およびシリアル CIM
- Paragon II 拡張ユーザ ステーション - P2-EUST

この章の内容

互換性のある KVM スイッチ	89
互換性のある CIM.....	92
P2-EUST ユーザ ステーション.....	96

互換性のある KVM スイッチ

"2 ユーザ用" MCCAT スイッチを以下のラリタン KVM スイッチと組み合わせて使用して、2 段カスケード システムを構成できます。

- MCCAT18 および MCCAT116 などの "1 ユーザ用" MCCAT スイッチ
- TMCAT17218 および TMCAT17216 などの TMCAT17 KVM ドロワー

1 ユーザ用 MCCAT スイッチ

"1 ユーザ用" MCCAT スイッチを MCCAT28 または MCCAT216 ベース スイッチに接続して、2 段カスケード システムを構成できます。"1 ユーザ用" MCCAT スイッチを 2 段目のデバイスとして設定するには、「**2 段カスケード システムの設定**」『p. 64』の主要な手順に従います。唯一の相違点は、"1 ユーザ用" MCCAT スイッチには **User2** ポートがないため、物理的なケーブル接続方法が "2 ユーザ用" MCCAT スイッチと異なることです。"1 ユーザ用" MCCAT スイッチの接続方法の手順については、「**MCCAT18/116 スイッチをベース スイッチに接続する方法**」『p. 90』を参照してください。

MCUTP ケーブルは 2 ユーザ用 MCCAT スイッチと互換性がありますが、"1 ユーザ用" MCCAT スイッチとは互換性がありません。このため、コンピュータを "1 ユーザ用" MCCAT スイッチに接続する場合に使用できるのは MCIM のみです。

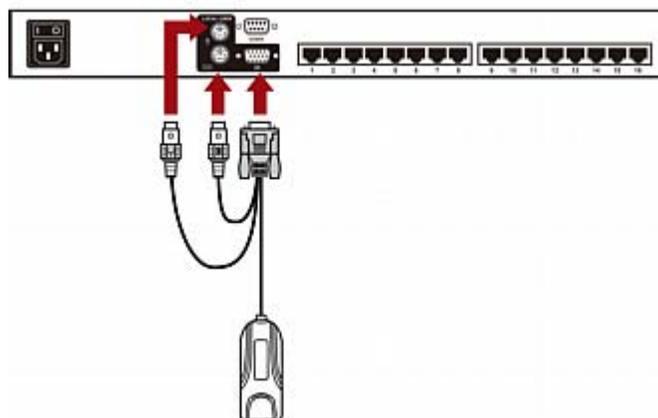
MCCAT18/116 スイッチをベース スイッチに接続する方法

"1 ユーザ用" MCCAT スイッチをベース スイッチに接続するためには MCIM-PS2 が 1 つ必要です。

MCIM-PS2 以外の MCUTP ケーブルや CIM を使用して "1 ユーザ用" MCCAT スイッチをベース スイッチに接続しないでください。

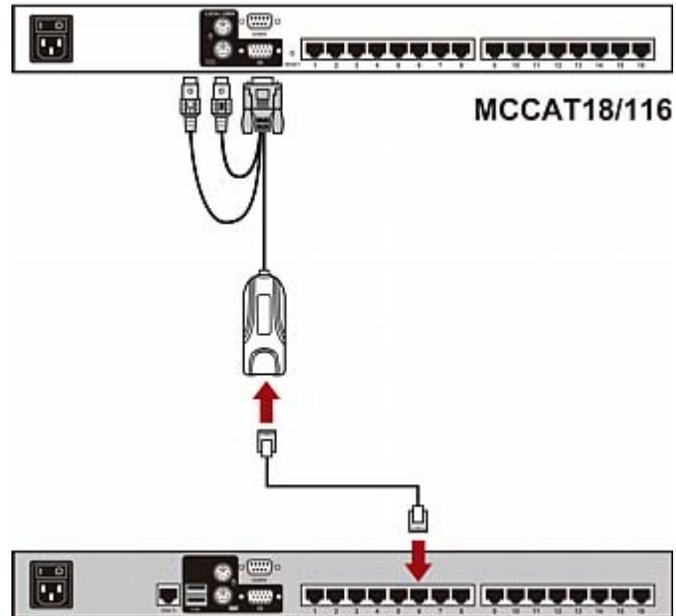
▶ "1 ユーザ用" MCCAT スイッチを 2 ユーザ用 MCCAT ベース スイッチに接続するには、以下の手順に従います。

1. すべての MCCAT スイッチの電源をオフにします。
2. MCIM-PS2 を 2 段目のデバイスとして設定されている MCCAT18 または MCCAT116 スイッチに接続します。
 - a. MCIM の PS/2 キーボード コネクタを、2 段目の MCCAT スイッチの PS/2 キーボード ポートに接続します。
 - b. MCIM の PS/2 マウス コネクタを、2 段目の MCCAT スイッチの PS/2 マウス ポートに接続します。
 - c. MCIM のビデオ コネクタを、2 段目の MCCAT スイッチの VGA ポートに接続します。



3. Cat5 UTP ケーブル経由で 2 段目の MCCAT スイッチを 1 段目のスイッチ (ベース スイッチ) に接続します。
 - a. Cat5 UTP ケーブルの一端を 2 段目の MCCAT スイッチに接続されている MCIM の RJ-45 ポートに接続します。

- b. Cat5 UTP のもう一方の端をベース スイッチのチャンネル ポートの一端に接続します。



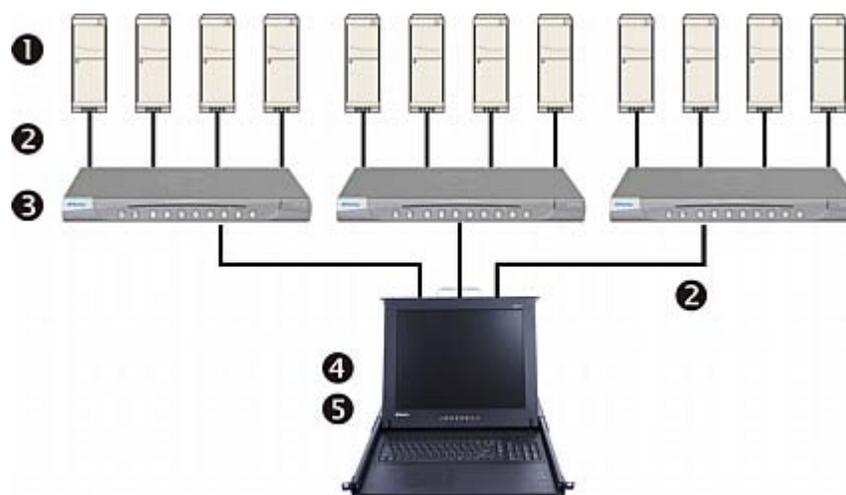
4. 上記の手順を繰り返し、その他の 2 段目の MCCAT スイッチをベース スイッチに接続します。
5. すべての 2 段目のデバイスの電源をオンにします。
6. 2 段目のデバイスのビープ音が聞こえたら、ベース スイッチの電源をオンにします。

重要： ベース スイッチの電源を入れる前に必ず 2 段目のデバイスの電源をオンにして、ベース スイッチが 2 段目のデバイスから最新のチャンネル データをダウンロードできるようにしてください。

TMCAT17 スイッチ

"2 ユーザ用" MCCAT スイッチを TMCAT17 ベース スイッチに接続できます。この 2 段カスケード構成手順は、"2 ユーザ用" MCCAT ベース スイッチの 2 段カスケード構成手順とほとんど同じです。詳細については、『TMCAT17 User Guide (TMCAT17 ユーザ ガイド)』を参照してください。これは **ラリタンの Web サイト** 『<http://www.raritan.com>参照』からダウンロードできます。

以下の図は、2 段カスケード TMCAT17 システムを示します。



①	コンピュータ
②	Cat5 UTP ケーブル
③	2 段目の MCCAT スイッチ
④	TMCAT17 ベース スイッチ (1 段目)
⑤	入出力デバイス (キーボード、マウス、モニタ)

TMCAT17 スイッチは 2 段目のデバイスとして動作できないため、"2 ユーザ用" MCCAT ベース スイッチに接続することはできません。

互換性のある CIM

MCIM-PS2 と MCIM-USB 以外に、MCCAT スイッチは他のラリタン コンピュータ インタフェース モジュール (CIM) とも互換性があります。詳細については、このセクションの表を参照してください。

CIM の接続方法は MICIM の接続方法と同じです。MICIM の接続方法については、「**接続の確立**『p. 16』」を参照してください。

CIM	コネクタ タイプ
P2CIM-APS2	PS/2 および HD15 (ビデオ) コネクタ
P2CIM-AUSB	USB および HD15 (ビデオ) コネクタ
P2CIM-PS2	PS/2 および HD15 (ビデオ) コネクタ
P2CIM-USB	USB および HD15 (ビデオ) コネクタ
DCIM-PS2	PS/2 および HD15 (ビデオ) コネクタ
DCIM-USB	USB および HD15 (ビデオ) コネクタ
DCIM-USB G2 *	USB および HD15 (ビデオ) コネクタ
P2CIM-SER	RS-232 (シリアル) および USB コネクタ
P2CIM-SER-EU	RS-232 (シリアル) および USB コネクタ

* DCIM-USB G2 をコンピュータに接続する場合は、CIM の後ろのスライド スイッチを、PC ベースのサーバでは P に、SUN サーバでは S に移動済みであることを確認します。

注 : MCCAT スイッチは P2CIM-APS2 の使用をサポートしますが、P2CIM-APS2 がサポートする Pinnacle FastAction キーボードはサポートしません。

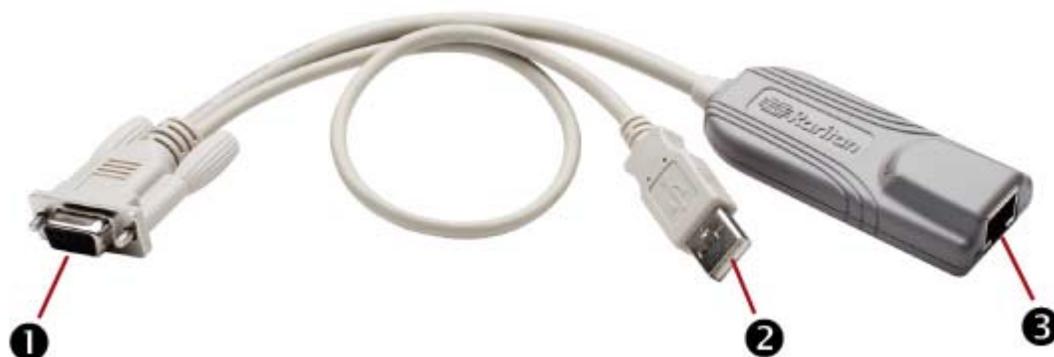
シリアル CIM を使用したシリアル デバイスの接続

ASCII シリアル デバイス、LAN/WAN コンポーネント、またはコンピュータを RS-232 シリアル ポート経由で MCCAT システムに接続するには、次に示すラリタンのシリアル CIM のいずれかを使用します。P2CIM-SER または P2CIM-SER-EU。これらの CIM は、ASCII 端末をエミュレートし、シリアル データを ASCII デバイスから VGA ビデオ (800x600x60) および PS/2 キーボード信号に変換できます。この変換により、システムに接続している ASCII シリアル デバイスにアクセスして操作できるようになります。

シリアル CIM には、次のような便利な機能があります。

- ASCII デバイスがテキスト端末に接続されているかのように、オンライン モードで ASCII デバイスと相互にやり取りします。
- Buffer Edit (バッファ編集) モードでは、データの編集、コピー、マーク、および ASCII シリアル デバイスやコンピュータへの再送信を行うことができます。
- 8 ページのデータを循環バッファに保持します。
- よく使用される文字列やコマンド用に、12 個のプログラム可能なキーが用意されています。

注 :P2CIM-SER と P2CIM-SER-EU は、機能的には同じです。唯一の違いは、P2CIM-SER-EU が多種多様な英語以外のキーボードと文字セットをサポートしている点です。



①	DB9 コネクタ
②	USB コネクタ
③	RJ-45 コネクタ

P2CIM-SER または P2CIM-SER-EU のインストールは非常に簡単です。

▶ **シリアル CIM をインストールするには、以下の手順に従います。**

1. シリアル DB9 コネクタを使用して、CIM をシリアル デバイスまたはコンピュータのシリアル ポートに接続します。
2. 標準の Cat5 UTP ケーブルを使用して、CIM をシステムに接続します。
3. CIM の USB コネクタを、電力が供給されている USB ポート、または別途入手可能な Raritan PWR-SER-4 電源アダプタに接続して、電力を確保します。

CIM の詳細については、**ラリタン Web サイト**『<http://www.raritan.com>参照』からダウンロードできる『*Paragon and Dominion KX Serial Device CIM User Guide (Paragon および Dominion KX シリアル デバイス CIM ユーザ ガイド)*』を参照してください。

▶ 『**Paragon and Dominion KX Serial Device CIM User Guide (Paragon and Dominion KX シリアル デバイス CIM ユーザ ガイド)**』をダウンロードするには、以下の手順に従います。

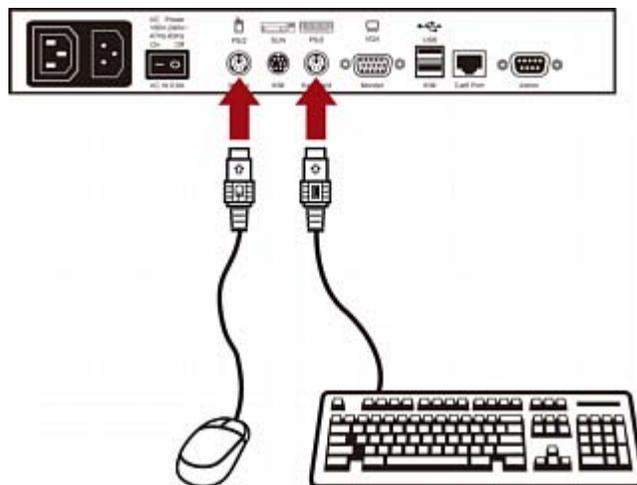
1. ブラウザを使用して、ラリタンの **Firmware and Documentation Web ページ**『<http://www.raritan.com/support/firmware-and-documentation/>参照』にアクセスします。
2. 左ペインで [Paragon II] > [Other Support Files (他のサポート ファイル)] の順にクリックします。
3. 右ペインで [User Guide (ユーザ ガイド)] をクリックします。
4. [Terminal Converter User Guide (ターミナル コンバータ ユーザ ガイド)] をクリックして開きます。
5. (オプション) [Save (保存)] アイコンをクリックすることで、コンピュータに保存できます。

P2-EUST ユーザ ステーション

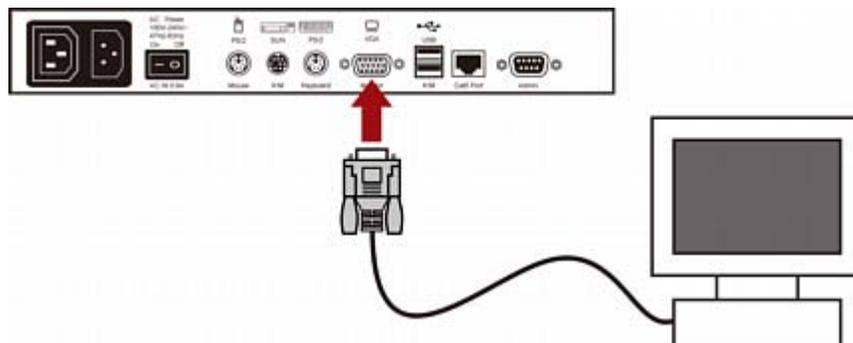
MCCAT28 および MCCAT216 スイッチは、Paragon II の拡張ユーザ ステーション P2-EUST と互換性があります。このデバイスをお持ちの場合は、MCCAT ユーザ ステーションの代わりに使用できます。さらに、P2-EUST では、MCCAT スイッチから最長で 750 フィートの距離にユーザを配置できます。詳細については、「**サポートされるケーブルの最大長**」[p. 97]を参照してください。

▶ **P2-EUST ユーザ ステーションを MCCAT スイッチに接続するには、以下の手順に従います。**

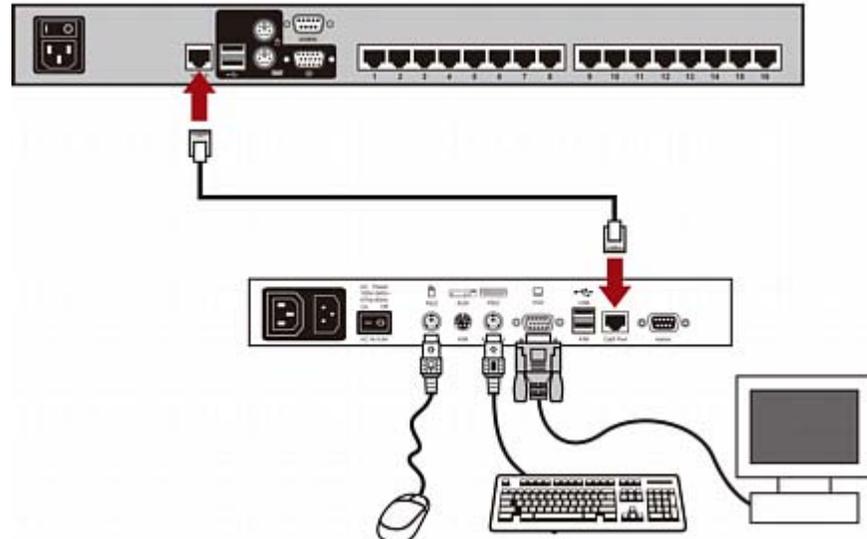
1. PS/2 または USB のキーボードとマウスをユーザ ステーションに接続します。



2. ユーザ ステーションに VGA モニタを接続します。



- 標準の Cat5 UTP ケーブルでユーザ ステーションを KVM スwitch に接続します。



- ユーザ ステーションに電源コードを接続します。
- ユーザ ステーションとモニタの電源をオンにします。

注：MCCAT スイッチでは P2-EUST デバイスがサポートされますが、P2-EUST デバイスに実装されている自動歪み補正機能はサポートされません。

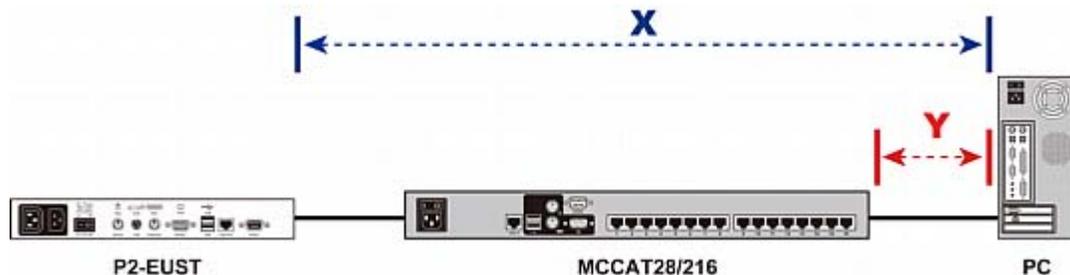
サポートされるケーブルの最大長

P2-EUST ユーザ ステーションとコンピュータ間のケーブル長または距離は 750 フィート (228.6 メータ) まで可能です。

サポートされるケーブル長

X= 750 フィート (228.6 メータ) まで

Y= 1600x1200 では 100 フィート (30.48 メータ) まで、1280x1024 以下では 150 フィート (45.72 メータ) まで



C: 他のラリタン製品との互換性

D

デフォルトの設定

フィールドまたは機能	工場出荷時のデフォルト
管理者パスワード	raritan (すべて小文字)
ユーザ パスワード	ユーザ アカウント (User01 ~ User07) はパスワードなし
スキャン レート	5 秒/チャンネル
操作モード	Private (プライベート)
ID Display (ID 表示)	オン
▪ 時間	3 秒
Green Mode (グリーン モード)	オフ
▪ 時間	5 分
Hotkey (ホット キー)	ScrollLock
Login Blank (ログイン ブランク)	オフ
▪ 時間	5 分
Logoff Timeout (ログオフ タイムアウト)	オン
▪ 時間	5 分

E

トラブルシューティング

問題	解決法
電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> 電源コードを確認します。 電源スイッチがオンになっていることを確認します。 コンピュータと MCCAT スwitchのケーブル接続を確認します。
1 台またはすべてのコンピュータのビデオが表示されない	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータへの CIM のビデオ ケーブルの接続を確認します。 MCCAT スwitchに接続されているモニタおよびコンピュータを確認します。MCCAT スwitchおよびコンピュータの電源をオフにします。モニタをコンピュータに直接接続し、コンピュータをブートして、モニタの表示が正しいことを確認します。正しくない場合は、コンピュータに問題があるか、またはモニタにコンピュータとの互換性がありません。正しく表示される場合は、次の項目のトラブルシューティングを行います。
モニタに一部のコンピュータからのビデオ出力が正しく表示されない	<ul style="list-style-type: none"> モニタがビデオ出力に対応していない可能性があります。モニタがシングル モード タイプの VGA の場合は、すべてのコンピュータのビデオ出力タイプが同じである必要があります。 <i>注</i> :この問題は、一部の IBM PS/2、IBM 63xx、85xx、および 95xx モニタで頻繁に発生します。インテリジェント タイプのディスプレイ カードは、モニタ ケーブルのコネクタのモニタ ID ピン設定に基づいてビデオ信号を出力します。ID ピン設定が正しくない場合は、MCCAT スwitchに接続しているモニタに何も表示されないか、表示がカラーではなく白黒になるか、モニタが不安定になる可能性があります。その場合は、正しい ID パターンをディスプレイ カードに指定する必要があります。サポートが必要な場合は、ラリタン テクニカル サポート (最後のページを参照) にお問い合わせください。
キーボード エラーも発生することなくすべてのコンピュータに電源が入るが、MCCAT スwitchに接続されているキーボードを操作できない (コンピュータに入力できない)	<ul style="list-style-type: none"> キーボードが MCCAT スwitchにしっかり接続されていることを確認します。キーボードを取り外してから、再接続します。 キーボードを交換します。(MCCAT スwitchでは、電源がオンのままキーボードを再接続できます)。 2 段構成では、キーボードが接続されている MCCAT スwitchが 1 段目であることを確認します。
コンピュータの電源投入時に、「KB ERROR (キーボード エラー)」というメッセージが繰り返し表示される	<ul style="list-style-type: none"> CIM のコンピュータに接続されているキーボード ケーブルが緩んでいる可能性があります。接続を確認し、コンピュータの電源を入れ直します。 MCCAT スwitchのインストール後、しばらく経過してから問題が発生し、問題が発生したコンピュータが以前は MCCAT スwitchと正常に連動していた場合は、一部のコンポーネントが故障している可能性があります。キーボードを直接コンピュータに接続し、コンピュータが正常に動作することを確認します。その後、販売店またはラリタンにお問い合わせください。

問題	解決法
しばらく問題なく動作した後で、MCCAT スイッチに接続されているキーボードが、特定のコンピュータを選択するとロックし (キーストロークを入力できない)、他のコンピュータを選択すると正常に動作する	<ul style="list-style-type: none"> 最も可能性の高い原因は、電源の電圧の "スパイク" (急上昇) または "ブローン アウト" (急下降) による、MCCAT スイッチのマルチプロセッサの誤動作です。この問題の一時的な解決法は、MCCAT スイッチの電源をオフにしてからオンにして、操作を元に戻すことです。その後、必要に応じてすべてのコンピュータを再起動します。長期的な回避策としては、MCCAT スイッチの電源に UPS を使用します。 キーボード接続を確認します。
コンピュータの電源投入時に、「MOUSE INSTALLATION FAILURE (マウス インストール エラー)」というメッセージが繰り返し表示される	<ul style="list-style-type: none"> CIM のコンピュータに接続されたマウス ケーブルが緩んでいる可能性があります。接続を確認し、コンピュータの電源を入れ直します。 この問題がシステムに追加したばかりの新しいコンピュータでのみ発生する場合は、KVM (MCCAT の内部マウス エミュレータ) のファームウェアを、新しいコンピュータと互換性のある新しいバージョンにアップグレードする必要があります。販売店またはラリタンにお問い合わせください。
しばらく問題なく動作した後で、MCCAT スイッチに接続されているマウスが、特定のコンピュータを選択するとロックし (マウス機能を制御できない)、他のコンピュータを選択すると正常に動作する	<ul style="list-style-type: none"> この問題の原因がコンピュータにあるかどうかを特定するために、コンピュータを別のケーブルを使用して別のチャンネルに再接続します。次に、コンピュータの電源をオンにします。ケーブルやチャンネルに問題がない場合は、マウスを直接コンピュータに直接接続します。問題が発生する場合は、コンピュータのマウス ポートが故障している可能性があります。マウス ポートに問題がない場合は、販売店またはラリタンにお問い合わせください。 MCCAT スイッチのインストール後、しばらく経過してから問題が発生し、問題が発生したコンピュータが以前は MCCAT スイッチと正常に連動していた場合は、一部のコンポーネントが故障している可能性があります。販売店またはラリタンのテクニカル サポートにお問い合わせください。
PS/2 キーボードまたはマウスが機能しない	MCCAT デバイスに USB キーボードまたはマウスを接続している可能性があります。MCCAT デバイスに接続されているキーボードおよびマウスのセットは 1 組だけにして、他のセットは抜いてください。
デバイスが OSD インタフェースで動作しない	キーボードを交換します。OSD インタフェースは、標準の PS/2、USB または拡張 AT 型のキーボードでのみ動作します。
モニタがダイレクト モードでビデオ出力を正しく表示できない	MCCAT ユーザ ステーションの電源コードを抜いてつなぎ直すことで、電源を入れ直します。

索引

[

- [Help (ヘルプ)] メニューの起動 - 43
- [Lobin (ログイン)] ボックス - 28
- [Login (ログイン)] ボックスの消去 - 56
- [Selection Menu (選択メニュー)] の使用 - 25

1

- 1 ユーザ用 MCCAT スイッチ - ix, 89

2

- 2 段カスケード システム - 12, 63
- 2 段カスケード システムの制限 - ix, 53, 71
- 2 段カスケード システムの設定 - 64, 89
- 2 段目のチャンネルのセットアップ - 48, 69
- 2 段目のチャンネルへのアクセス - 70

F

- F6 ファンクション キーの使用 - 39
- F7 ファンクション キーの使用 - 41

I

- ID の表示機能のセットアップ - 60
- ID 表示位置の調整 - 61

M

- MCCAT コンピュータ インターフェース モジュール (MCIM) - 2
- MCCAT スイッチ - ix, 2, 6, 7, 8
- MCCAT スイッチのラック マウント - 12
- MCCAT スイッチの名前変更 - 28, 50
- MCCAT ユーザ ガイドの新しい内容 - ix
- MCCAT ユーザ ステーション - 2, 7, 10
- MCCAT ユーザ ステーション (オプション) - 7
- MCCAT18/116 スイッチをベース スイッチに接続する方法 - 65, 89, 90
- MCUTP ケーブル - ix, 3

O

- OSD インタフェースの概要 - 28
- OSD のメニュー - 29

- OSD のレイアウト - 28
- OSD の起動 - 31
- OSD メニューの位置の調整 - 61
- OSD 操作キー - 33

P

- P2-EUST ユーザ ステーション - 19, 22, 96

S

- SCAN ボタンの使用 - 39
- Selection Menu (選択メニュー) - 26, 30
- SKIP ボタンの使用 - 41
- Sun キーをエミュレートする場合 - 45
- Sun サーバのサポート - ix, 18, 44

T

- TMCAT17 スイッチ - ix, 92

あ

- アクティブ チャンネル - ix, 8, 32
- アクティブ チャンネルおよび非アクティブチャンネルとは - ix, 6, 9, 31, 32, 40
- アクティブ チャンネルのみへのアクセス - 39, 40

か

- キーボード レイアウトのコード - ix, 74
- キーボード レイアウト設定 (Sun USB MCUTP ケーブルの場合) - ix, 72
- キーボード レイアウト設定の変更 - ix, 72
- クイック スタート - 12
- グリーン モードのセットアップ - 54
- ケーブル サポート バーの接続 (オプション) - 13
- ケーブルの長さ制限 - ix, 87
- コンビネーション キーの表 - 45
- コンピュータの共有 - 42, 53
- コンピュータまたはチャンネルへのアクセス - 24, 46

さ

- サイズ - 85

索引

サポートされるケーブルの最大長 - 96, 97
サポートされる解像度 - 86
システム設定 - 12, 34, 47
システム設定のリセット - 62
シリアル CIM を使用したシリアル デバイスの接続 - 94
スキャン レートの変更 - 38, 49, 70

た

チャンネル ID の表示機能のセットアップ - 59
チャンネル ステータスの更新 - 8, 31, 46
チャンネル ボタンの使用 - 26
チャンネルのソート基準の切り替え - 30, 37
チャンネルの循環 - 38, 46
チャンネルの色 - 31
チャンネルの色とステータス - 33
チャンネル名の割り当てと変更 - 48, 50, 70
デフォルトの設定 - 99
トラブルシューティング - 100

は

ハイライト色の説明 - 31
はじめに - 1
パスワードの変更 - 24, 51, 58
パッケージの内容 - 7
ファームウェアのアップグレード - 78
ベース スイッチの OSD に戻る - 71
ホット キーの変更 - 31, 52

や

ユーザ アカウントの管理 - 57
ユーザ アカウントの削除 - 59
ユーザ アカウントの追加 - 58
ユーザ アカウントの名前変更 - 57, 58
ユーザ ステーションのダイレクト モード - ix, 10, 76, 88
ユーザ ステーションのダイレクト モードの最大距離 - ix, 88
ユーザ ステーションの接続 (オプション) - 19, 20, 67, 76
ユーザおよび MCCAT スイッチの最大距離 - ix, 87, 88
ユーザおよびコンピュータの最大距離 - ix, 87

ら

ログアウト - 26
ログイン - 23, 36
ログオフ タイムアウト機能のセットアップ - 55

漢字

概要 - 63
基本的なインストール - 15
互換性のある CIM - 92
互換性のある KVM スイッチ - ix, 89
構造図 - 7
高度な操作 - 12, 36
仕様 - 85
手順 (A)
MCCAT スイッチを 2 段目のデバイスとして設定する - 8, 36, 47, 62, 64
最新のファームウェアとアップグレードユーティリティをダウンロードする - 78
手順 (B)
2 段目の MCCAT スイッチをベース スイッチに接続する - 65
アップグレード ユーティリティを実行するコンピュータに目的のデバイスを接続する - 79
手順 (C)
アップグレード ユーティリティを起動する - 81
入出力デバイスをベース スイッチに接続する - 66
手順 (D)
OSD で 2 段目のデバイスの種類を指定する - 68
手順 (E)
コンピュータを MCCAT システムに接続する - 69
製品の特徴 - 6
製品概要 - 1
製品写真 - ix, 4
接続の確立 - ix, 16, 44, 66, 69, 76, 92
前提条件となる項目の準備 - ix, 15

前面 - 8, 10
前面マウント - 14
操作モードの変更 - 42, 53
他のラリタン製品との互換性 - 89
電源 - 85
動作環境 - 85
特殊な Sun キーのエミュレート - 44
背面 - 9, 10
背面マウント - 14, 15
非アクティブ チャンネル - ix, 8, 32

▶ 米国/カナダ/ラテン アメリカ

月曜日～金曜日
午前 8 時～午後 8 時 (米国東海岸時間)
電話 :800-724-8090 または 732-764-8886
CommandCenter NOC に関するお問い合わせ :6 を押してから 1 を押してください。
CommandCenter Secure Gateway に関するお問い合わせ :6 を押してから 2 を押してください。
Fax :732-764-8887
CommandCenter NOC に関する電子メール :tech-ccnoc@raritan.com
その他のすべての製品に関する電子メール :tech@raritan.com

▶ 中国

北京

月曜日～金曜日
午前 9 時～午後 6 時 (現地時間)
電話 :+86-10-88091890

上海

月曜日～金曜日
午前 9 時～午後 6 時 (現地時間)
電話 :+86-21-5425-2499

広州

月曜日～金曜日
午前 9 時～午後 6 時 (現地時間)
電話 :+86-20-8755-5561

▶ インド

月曜日～金曜日
午前 9 時～午後 6 時 (現地時間)
電話 :+91-124-410-7881

▶ 日本

月曜日～金曜日
午前 9 時 30 分～午後 5 時 30 分
電話 :+81-3-3523-5991
電子メール :support.japan@raritan.com

▶ ヨーロッパ

ヨーロッパ

月曜日～金曜日
午前 8 時 30 分～午後 5 時 (GMT+1 CET)
電話 :+31-10-2844040
電子メール :tech.europe@raritan.com

英国

月曜日～金曜日
午前 8 時 30 分～午後 5 時 (GMT)
電話 :+44(0)20-7090-1390

フランス

月曜日～金曜日
午前 8 時 30 分～午後 5 時 (GMT+1 CET)
電話 :+33-1-47-56-20-39

ドイツ

月曜日～金曜日
午前 8 時 30 分～午後 5 時 30 分 (GMT+1 CET)
電話 :+49-20-17-47-98-0
電子メール :rg-support@raritan.com

▶ メルボルン (オーストラリア)

月曜日～金曜日
午前 9 時～午後 6 時 (現地時間)
電話 :+61-3-9866-6887

▶ 台湾

月曜日～金曜日
午前 9 時～午後 6 時 (標準時 : GMT -5、夏時間 : GMT -4)
電話 :+886-2-8919-1333
電子メール : support.apac@raritan.com